[論 文]

中年女性の健康状態測定のための既存尺度の信頼性・妥当性の検討と健康問題の抽出に関する研究

遠藤俊子* 野澤美江子* 渡邉竹美* 伏見正江* 岡部恵子*

Validity and Reliability of Conventional Health Measuring Scales and their Application to the Problems of Middle Aged Women

Endo Toshiko Nozawa Mieko Watanabe Takemi
Fushimi Masae Okabe Keiko

(1995年12月18日受付)

ABSTRACT

The reliability and validity of the conventional three Health Measuring Scales (HMS) were studied and evaluated for 421 middle aged women in three towns in Kitakoma−gun, Yamanashi Prefecture. Since the Validity of the HMS was reconfirmed, they were applied to elucidate health problems.

1. The reliability and validity of the three Health Measuring Scales, Keio Medical Questionnaire, SMI and SDS were reconfirmed on the basis of the results as follows.
   1) Their internal consistency obtained by Cronbach's alpha.
   2) Their construct validity was examined using correlation coefficient between individual items, and factor analysis.
   3) Their concurrent validity was judged by the correlationship among the three HMS.

2. Diagnoses were changed based on the HMS results: Neuro−cognitive functions, body image, and sexual reproductive conditions were elucidated and differed from results obtained in a number of hospitals.

3. The HMS shed light on the problems of women over 55, mothers with children under 10 years old, and sick middle aged women.

Key Words: Middle aged Women, Health Measuring Scale, Health problems

*本学母性看護学

Ⅰ．研究の必要性・意義

今日、我が国は他に類をみないスピードで平均寿命の延長がみられ、高齢社会の到来は、ライフスタイルの変容をもたらしている。
この傾向はさらに進むことが予測され、女性の平均寿命は2025年には、85.06才まで延びることが推測され、閉経後の期間は人生の1/3　以上にも及ぶ[1]。閉経以降をいかに健康的に、かつ有意義な生活をするか、長生きの内容や質までも問われるようになった。

このことは、国レベルの問題として捉えると、現実に中年（更年期）といわれる世代に、戦後の第一次ベビーブームに出生した、いわゆる団塊の世代の女性達が加わり、急激な数の増加をみている。

ちなみに、50才以上の女性の数は、1990年には2,024万人であったものが、2000年には2,619万人、2010年には2,907万人ともいわれ、中年あるいは老年期の女性の健康問題が、数の上からもクローズアップされていく時代に入っている[1]。

一方、個人の健康問題として捉えると、中年期は女性にとって大きな節目である。すなわち、心理・社会的には自己および配偶者の社会的役割の転機を控えた時期にあり、子どもの独立の時期、親の病や死に直面する時期、さらに職場や地域での重要な役割担当の時期でもある。また、身体的には卵巣機能の低下や閉経により、種々の自覚症状をもたらし、時には日常生活を維持するのを困難にしている。

以上のような中年期にある女性達の健康問題を受けとめる場はまだ少ない。その原因としては、①平均寿命が急激に上昇したこと、②文化的背景から女性は自分の健康問題を表面化させない、いわば生理的現象であり、我慢することが大切と思っていること、③婦人科外来が恥ずかしいといった感覚があること、④現行の医療保険制度では、採算がとれず医療機関が窓口を開設しないこと等である。

ところが最近になって、婦人科外来の一部に更年期クリニックや中高年健康維持外来等が設けられはじめたのは、時代的な趨勢を反映してのことであろうが、まだ身体医学的な対応が中心となり、一人の女性の全体的な問題としての取り組みが行われていない。
加えて、看護がこの年代の女性の健康問題に参画していく必要性を感じこの研究に着手した。

Ⅱ．文献検討

1　更年期についての解釈と更年期障害とその要因

更年期とは、FIGO（世界産科婦人科学術会議）の定義委員会では、「更年期とは性的成熟状態から卵巣機能が完全に消失するまでの期間」と定めており、生物的には卵胞の自然消失による卵巣の排卵機能とホルモン産生機能の衰退であり、臨床的にはこの時期に閉経となる。最近の閉経年齢は48.9才と報告されており、40才から始まり45才から急激に増加し、50才をピークに減少し、55才でカーブが最後である。年代や各国や地域の差異もほとんどない[2]。

更年期に相当する英語は、Climacteriumであり、その語源はClimaxにあるという。つまり人生の総仕上げ、結実を迎えるという意味あいをもつ期間として派生したらしい。そして、この時期を過ごした後に、心身の調和のとれた円熟期である老年期へと移行することを意味した。閉経を中心にとらえ、閉経期という意味でMenopausalとも用いている[3]。

更年期の症状は、血管運動神経障害と精神神経障害に大別され、いづれも女性ホルモンの失調に、心理的要因および社会的・環境的要因によるストレスが加わって発症すると考えられている。このうち血管運動障害はことにestrogenの低下との関連が強く、代表的には「ほてり（hot flush）」があげられメカニズムとしては、閉経後estrogenの低下により、中枢におけるカテコールエストロゲン、カテコラミンの変化から体温中枢にて感じ「ほてり」を生じさせる。また、子宮、卵管、膣、外陰部、尿道および膀胱頸部にはエストロゲンレセプターが存在し機能を維持してきたが、閉経以後萎縮し膣炎、性交障害、膀胱炎、尿道炎、皮膚萎縮、脱毛などが出現する。さらには、骨粗鬆症や脂質代謝異常などの問題も最近注目されている。また、精神神経障害は、女性ホルモンの低下との結びつきは比較的少ないといわれている。

更年期症状の程度を推測することは、女性の訴えにもとづくものであり、客観的に評価することは困難な面も多い。また、その原因も、estrogen分泌停止のみでなく環境因子、心理的因子などがあり一層複雑なものにしており、診断・治療に多方面からの対応を必要としている。

日本人の更年期障害は訴えの頻度が欧米人に比べて少なく、Lock[4]の調査によると、閉経前後に何の兆候もなかった女性は日本人は24％もいるが、カナダ人は3.5％であったという。代表的な「ほてり」も日本人は20％しか感じていないのに比し、カナダ人は69.2％も感じていたという。この理由は、民族性、生活様式、食生活、社

会習慣など、いろいろ考えられているが、これだけの差異があれば、欧米の基準で日本人の更年期を検討するには無理があるといわれている。

従って、従来から用いられてきたKuppermanの更年期障害指数[5]も日本人への適否が疑問視され、小山の簡略更年期指数[6]や慶応式中高年健康維持外来調査表[7]などが開発されているが、必ずしも統一見解は得られていない。

また、更年期症状に関するデータは、検査や治療をうけるために受診した女性達から得られたデータであって、更年期にあり一般女性から得られたものは少ない。

2　中年期の発達に関する研究

心理学のなかでも、比較的新しい領域で、まだその成果は十分に明確になっていない領域とされている[8]。先駆的研究としては、Jung[9]は40才を「人生の正午（Mittag des Lebens）」とし、それ以後の人生にこそ人格の全体性が達成されるような発達の可能性が可能になると考え、人生の転換が個性化という過程によって達成されるとした。個性化とは「自我が自らの権力を握り、自分より偉大な何者かに依存していることを認めることにある。」とした。この記述は、中年の危機の核心をとらえた心理学史上初めての研究であるとされている。Erikson[10][11]は、人間の８つの発達段階と題する人間生涯全般にわたる発達論を展開した。８つの時期に、それぞれ固有の心理・社会的発達課題と危機が存在するととらえ、第７段階にあたる中年期には、「生殖性対停滞」が課題になってくる。ここでいう生殖性とは「次の世代の確立と指導に対する興味をもつことである。家庭で成人になろうとする子供、仕事上での弟子に自らの価値観を伝えることである。」この能力の欠如は、停滞の感覚の浸透と人間関係の貧困化をともなうこととなるという。Neugarten[12]は、中年の主観的体験あるいは関心事に関する研究にふれ、①身体が弱くなっている感じが強くなり、自分をモニターする意識があらわれてくる　②時間は誕生からの時間より死までの時間の観点からみるようになる　③死がさしせまった感じ　④職場や家庭での役割変化から自らを中年と意識するようになる　⑤内省し、自分の内面のふりかえりが多くなる　⑥人生の全盛意識　の６点をあげている。また、中年期以降目立ってくる性格変容について明らかにしており、①環境に対するかかわり方が、男性では能動性から受動性へ、女性ではこの逆に変化すること　②外部世界に向かっていた関心が心の内面に向かうことをあげている。

Jaques[13]は、「中年の危機」という言葉をはじめて用い、40才を境に創造性の変化に着目し、その変化は自らの死と死の本能に気づき、その絶望を乗り越えることとした。Gould[14]は、35～43才では、自分の価値に対する大きな疑問が生じ、同時にもはや時間が限られているように思うが一方では、もう一花咲かせようという仕事への関心も存在する。そして、50才以上では、安らぎと暖かみのある感情が増強するという。

Levinson[15]は、成人の精神生活が段階的に発達すること、中年の危機が存在することを実証した。成人の発達とは、生活構造（Life Structure：職業、異性関係、結婚と家族、自分自身に個人がどのようにかかわっているか）の歴史的変遷を意味しており、中年の危機を「人生半ばの過渡期」と呼び、その時期における発達課題のとくに重要なものとして、４つの両極性ー若さと老い、破壊と創造、男らしさと女らしさ、愛着と分離ーつまり自らのうちに、30代では一方に著しく偏った相反する２つの傾向をより高い次元で再統合することをあげている。

我が国の中年期の研究では、河合[16]が人生後半の課題について、自らの内なる悪の位置づけを含め、この世に存在するすべてを１つの全体性をもったイメージにつくりあげること、すなわちコスモロジーの完成にあるという。また、小此木[17]は、中年期の課題として、子から親への視座の転換の中で、羨望と競争心から離脱し、親らしい親になることを強調している。また、岡本は[18]は、自我同一性の問い直しと再体制化の過程を明らかにしている。すなわち、身体感覚の変化の認識にともなう危機期があり、自分の再吟味と再方向性についての模索期を経て、軌道修正・軌道転換期に至り、アイデンティティ再確定期を迎え、自己安定感・肯定感の増大があるという。

3　中年女性の研究

中年の発達課題のうち、自らの死や限界と受容や自らの幼児期葛藤の解決、自我同一性の問い直しは男女共にあるが、男女の差異が明確になるのは、役割の変換と生物学的差異すなわち閉経による身体的な差異とその認識である

女性にとって、もっとも伝統的には、Deutsch[19]は閉経とともに一定の欠損を体験すると考えられてきた。しかし、Neugarten[20]は大多数が閉経をむしろ歓迎することを明らかにしている。Notman[21]も中年の女性の困難は閉経そのものに基づく部分は極めてわずかであり、そ

れまで育児に専念していた女性が中年に至り、仕事にでるようになるが、その職場で様々な問題に出会う場合など、種々の生活領域で生じる事項を包括的にみていくことの必要性を強調している。Sheehy[22]は、女性が中年になると「今までやってみたかったけれども途中で脇にどけておいたこと」をもう一度やってみようと考えるようになるといっている。

一方、我が国の女性達も、歴史的にもその社会的地位や置かれていた立場から様々な葛藤をもち、「空の巣症候群」や「キッチンドリンカー」などの問題も生じている。深沢[23]は中高年女性の心理と病理を分析し、有職婦人よりも専業主婦のほうが、「自分に対する評価」を脅かされ、不安に陥りやすいことを指摘し、その理由は主婦であることの評価の曖昧さと他者を通じて生きる態度が子供の自立による母親役割の喪失が典型な例であるとしている。さらに、現在の少子高齢社会の問題は女性に介護の問題が重なり、また新たな症候群が出現する可能性すらある。

Ⅲ．問題提起ならびに概念枠組み

文献検討により現在の中年期の女性の健康問題のひとつは更年期特有のホルモンのアンバランスからくる身体問題が引き金になることは明らかである。これを明らかにするには、如何なる方法が存在するであろうか、医学領域においては古くからKuppermanらのMenopausal Index[2]が代表的であることは先にも述べたが、1950年代の米国人を対象としたものであり日本人の症状に一致していないばかりか、欧米人でさえも更年期障害に特異的でないとする意見や、点数の重みづけに対しての批判があり、症状を捉える尺度、指数の有効性、必要性に関していまだ見解の一致をみていない[24]。しかし、様々な医療機関において、その必要性から日本大学式更年期指数[25]、安部のスコア[26]、慶応式中高年健康維持外来健康調査表（以下慶応式調査表と略す）[27]、小山の簡略更年期指数（Simple Menopausal Index　以下ＳＭＩと略す）[6][28][29]、昭和医大の７項目レーダーチャート[30]等が考えられている。また，この時期には、抑うつ傾向や不安感もあり、Zungの自己評価式抑うつ尺度（Self Rating Depression Scale　以下ＳＤＳと略す）[31][32]等に代表される抑うつ尺度などを併用してうつ病性障害との鑑別スクリーニングを行っている。しかし、それらのいずれにおいても病院という検査や治療の場において得られたデータから尺度の開発をしている。

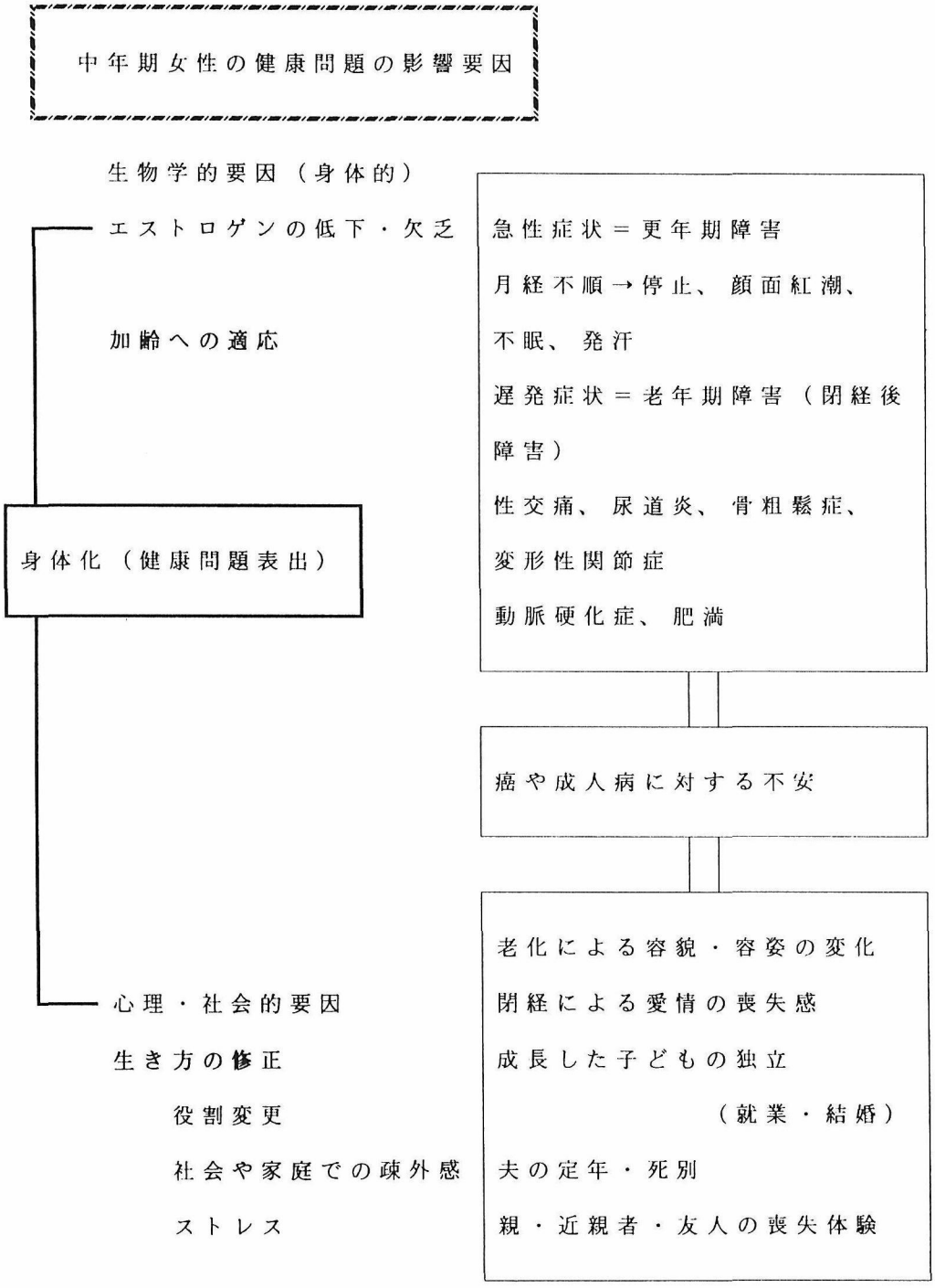
一方、発達心理学領域においては、中年研究はまだ日が浅く、我が国では岡本等[33][34]遠藤等[35]－[37]がEriksonの人格発達図式に示された第１～８段階の各心理社会的課題に焦点化された文章完成テストを用いて、自我同一性を明らかにしながら、同一性の問い直しと再生化の過程を示したが、個人の経験の質的な面に目をむけて人間の成熟の過程を捉えることにその方法論を事例研究におくことを重視している。

看護の立場でみると、看護の重要な役割と責任は、人々の健康の保持・増進、疾病の予防、苦痛の軽減（安らかな死への援助）であり，藤村[38]は成人期の特性や疾病特性、および健康問題に対する人間の反応に着目しながら、成人看護の役割は、①加齢から生ずる健康問題の解決を助ける教育的・相談的役割、②発達課題の達成への援助、③健康管理のためのセルフケア能力の助長、④基本的ニードの充足に対する生活の援助、⑤ストレス状況・障害をもった生活への適応を促す調整的役割、⑥援助関係を継続する責任と役割を述べている。

また川田[39]は、健康教育の立場から①治療的アプローチ②社会的アプローチ、③社会環境改善アプローチ、④心理アプローチをあげている。

したがって、看護において中年期の女性の健康問題を捉える視点として、加齢・発達課題・社会・健康管理のセルフケア能力に焦点をおきつつ、看護の役割との関係で明らかにしていく必要があると考えられる（本研究の概念枠組み）。しかし、現実的に看護がこの領域における介入をおこなっていないため、いまだそれぞれの状況を明らかにしていく研究の積み重ねが重要と考えられる。

本研究の概念枠組み


中年期女性の健康問題の影響要因
生物学的要因（身体的）
エストロゲンの低下・欠乏
加齢への適応
身体化（健康問題表出）
心理・社会的要因
生き方の修正
役割変更
社会や家庭での疎外感
ストレス
急性症状＝更年期障害
月経不順→停止、顔面紅潮、
不眠、発汗
遅発症状＝老年期障害（閉経後
障害）
性交痛、尿道炎、骨粗鬆症、
変形性関節症
動脈硬化症、肥満
癌や成人病に対する不安
老化による容貌・容姿の変化
閉経による愛情の喪失感
成長した子どもの独立
（就業・結婚）
夫の定年・死別
親・近親者・友人の喪失体験

Ⅳ．研究目的

1　中年期（更年期）女性の健康問題を査定するために、我が国で用いられている既存尺度の信頼性と妥当性を検討する。

2　既存尺度から得られたデータより、中年女性の健康問題を分析する。

Ⅴ．用語の定義ならびに操作的定義

1　中年： middle adulthood、middle ageなどと呼ばれる人生の一時期であり、暦年齢的には40～65才頃とされる[40]が、本研究においては、その範囲は40～59才とした。

2　更年期：生殖期（性成熟期）と非生殖期（老年期）の間の移行期をいい、卵巣機能が衰退しはじめ消失する時期にあたり、閉経は排卵機能の終了と考えてよいがestrogen分泌のある間は更年期とし、閉経後５年くらいとする[41]。従って暦年齢的には43～56才頃の期間である。

3　健康：十分な実りがあって、楽しむことのできる生活への個人的な適応能力である[42]。ＷＨＯのオタワ宣言の中でいう「健康は抽象的な状態としてではなく、人の潜在能力を最大限に生かすことであり、環境の挑戦に対して積極的に反応していく能力である」と考える。

毎日の生活の資源として考えられ、身体的能力と同時に社会的・個人的資源を強調した積極的概念である。また個人と環境との相互作用、そして両者の動的な均衡を重視していることから相対的・主体的性質を重んじる。すなわち、「主体的な健康の考えかた」を重視する[43]。

Ⅵ．研究方法

1　対象

山梨県北巨摩郡３町村の一般健康診査に来所した40～59才の女性で、本研究に同意を得られた人。調査用紙配布数650人、回収数443人（回収率68.2%）であり、有効回答数421人（64.8%）であった。

2　データ収集期間

平成７年７月～８月

3　調査方法

1）中年女性の健康問題を抽出するために、我が国で比較的用いられている尺度である、ＳＭＩ10項目、慶応式調査表40項目、ＳＤＳ20項目の計70項目中から同一内容の質問と解釈されるものは、１つにし、項目数を56に絞り込んだ質問紙を作成した【資料１】。

2）各町村の健康診査会場の健診最終用紙回収場所にて、調査用紙の説明を行い、本研究に同意を得られた人に調査用紙を配布し、郵送にて直接回収した。

4　分析方法

回収した調査用紙から、ＳＭＩ、慶応式調査表、ＳＤＳの３尺度に分け点数化し、Excel5.0に入力して基本統計を行い、統計ソフトVisual－Statでｔ検定、χ^2検定、因子分析を行った。

Ⅶ．結果

1　対象の属性

対象者の最低年齢は40才、最高年齢は59才であり、平均年齢は50.27±5.92才であり、５才毎の年齢別では、40～44才が21.4%、45～49才が23.4%、50～54才が25.0%、55～59才が30.2%であった（図１）。

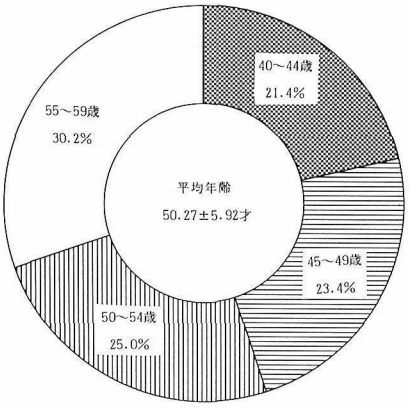


図１　年齢構成

閉経の時期別にみると閉経前53.9%、閉経後５年未満21.9%、閉経後５年以上24.2%であり、閉経後の対象者の閉経年齢は、48.95±4.09才であった（表１・図２）。

親と同居をしている割合は41.3%であり、その中で両親ともそろって同居している割合は33.3%、男親のみ11.5%、女親のみ55.2%であった。子どもと同居している割合は71.7%であり、同居している末子の年齢別にみると、10才未満8.3%、10～19才30.6%、20～29才28.5%、30～39才4.3%であった。また家庭内で介護をしている割合は20人（4.8%）であった。

仕事は、常勤が42.2%、パート30.2%、無職27.6%であった。

現在医療機関に通院している疾病をもつ割合は25.4%であった。

2　慶応式調査表に関する分析

表２に示した本調査は40項目からなり、各々が独立した項目であると同時にいくつかのカテゴリーをなし、12

表１　年齢別閉経時期割合

（人）

	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	合計(%)
５年以上	0	0	24	78	102(24.2%)
５年未満	4	12	50	26	92(21.9%)
閉経前	86	87	31	23	227(53.9%)
合計	90	99	105	127	421(100.0%)

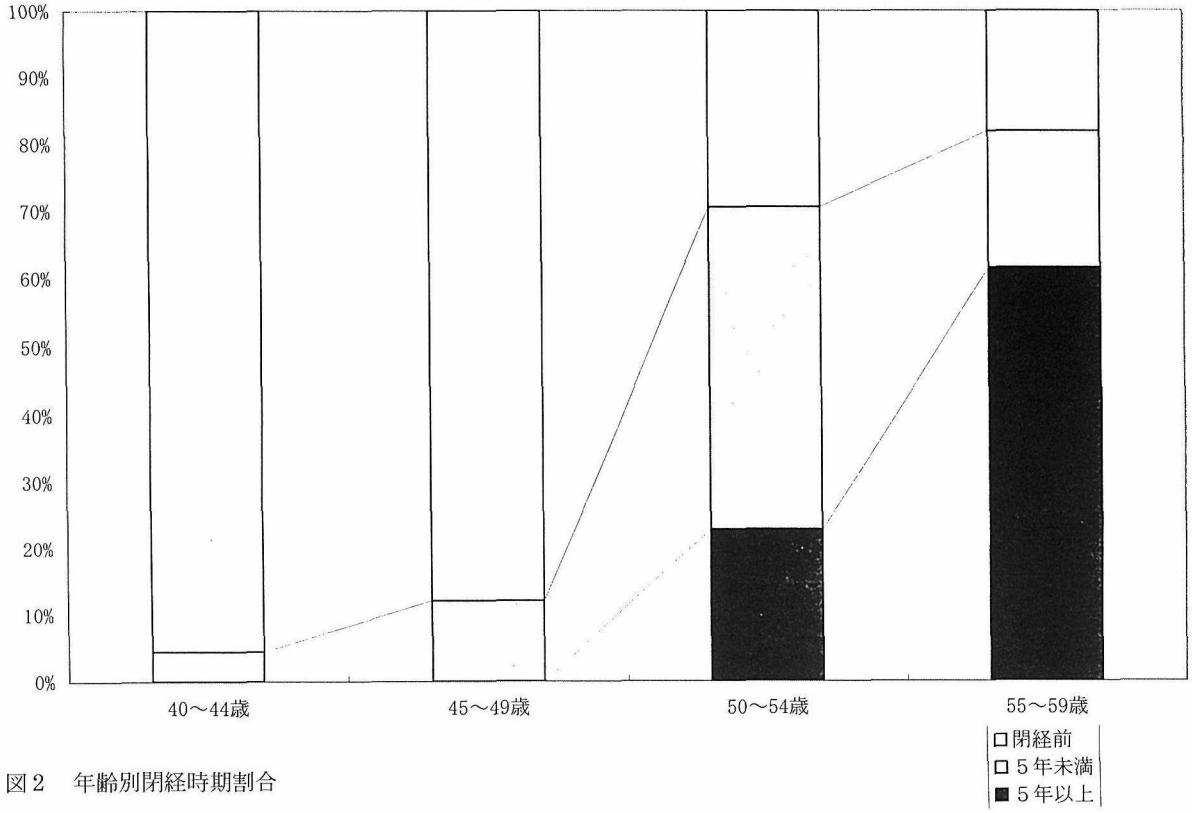


図２　年齢別閉経時期割合

症状群25症状までは我が国の女性の更年期障害を頻度順に並べており、13症状群26症状目以降は更年期障害を幅広くとらえるものとして追加してある。

調査の40症状を非常にある（重度）、ある（中等度）、たまにある（軽度）、ないの４段階のリッカート法にて回答を得た結果の40症状の回答割合は図３に示し、20症状群の割合を図４に示した通りであり、４段階に各々４・３・２・１点とするとその平均と標準偏差を表３に表示した。

12症状群25症状までは重度・中等度の割合の高い症状はno2.汗をかきやすい143名（36.6%）、no7.肩こりがある131名（32.3%）、no9.疲れやすい132名（32.6%）、no12.神経質である95名（23.9%）、no15.つまらないことにくよくよする64名（15.8%）などであり、26症状目以降ではno26.物忘れする68名（16.8%）、no27.覚えられない74名（18.7%）、no28.皮膚のしわが気になる74名（18.6%）、no29.髪のボリュームが少なくなる89名（22.5%）などがあげられる。

逆に少ない項目としては、no21.手足の感覚がにぶる7名（1.8%）、no24.はきけがある8名（2.0%）、no25.皮膚をアリがはうような感じがある2名（0.5%）、no31.お小水が間に合わない2名（0.5%）などがあがった。

さらに軽度の割合まで入れると、最も頻度の少ないものは3.3%のものがあるが、多くが30～50%の割合で症状を有し、汗をかきやすい、腰が痛い、肩こりがある、疲れやすい、物忘れする、覚えられないなどは60～80%も症状を有していた。

表２　慶応式中高年健康維持外来調査表

症状 種類	症状群	症状 種類	症状群
1.顔が熱くなる（ほてる） 2.汗をかきやすい 3.腰や手足が冷える 4.息切れがする	1 血管運動神経障害様症状	26.物忘れする 27.覚えられない	13認知機能障害様症状
5.腰が痛い 6.背中が痛い	2 腰背痛	28.皮膚のしわが気になる	14皮膚症状
7.肩こりがある 8.手足の節々の痛みがある	3 関節・筋肉痛	29.髪のボリュームが少なくなる	15毛髪症状
9.疲れやすい	4 全身倦怠	30.お小水が近い 31.お小水が間に合わない 32.お小水が漏れる	16膀胱症状
10.興奮しやすい 11.イライラする 12.神経質である 13.不安感がある	5 神経質	33.おりもの（帯下）に色がつく 34.膣に乾いた感じがある 35.膣にかゆみがある 36.性交時痛みがある	17膣症状
14.頭が痛い	6 頭痛		
15.つまらないことにくよくよする 16.憂うつになることが多い 17.意欲がわかない	7 憂うつ	37.のどがつかえるような感じがする	18咽頭症状
18.夜なかなか寝つかれない 19.夜眠っても目を覚ましやすい	8 睡眠障害	38.眼の痛みがある 39.眼の乾いた感じがある	19眼症状
20.手足がしびれる 21.手足の感覚がにぶる	9 知覚障害様症状	40.腹部膨満感がある	20消化器症状
22.心臓のどうきがある	10心悸亢進		
23.めまいがある 24.はきけがある	11めまい		
25.皮膚をｱﾘがはうような感じがする	12蟻走感		

25項目、12症状までは本邦婦人にみられる更年期障害を頻度順に並べるとともに、分かりやすく説明した。さらにそれ以降の項目、症状群は、更年期障害を幅広く考えるとこのようなものも含まれるということを知っていただくために追加し、全く新たな更年期調査表とした。

（太田博明：外来での更年期患者の治療の進め方、JIM、5(2)、P115、1995より引用）

表3　慶応式調査票　各項目別平均・標準偏差

項目	平均	標準偏差	項目	平均	標準偏差
全体	1.49	0.52	20	1.41	0.69
			21	1.12	0.40
1	1.47	0.72	22	1.35	0.56
2	2.08	1.02	23	1.36	0.55
3	1.65	0.87	24	1.13	0.40
4	1.34	0.61	25	1.09	0.30
5	1.96	0.81	26	2.02	0.64
6	1.48	0.70	27	1.83	0.79
7	2.17	0.89	28	1.60	0.86
8	1.63	0.80	29	1.58	0.93
9	2.18	1.77	30	1.32	0.63
10	1.46	0.65	31	1.04	0.24
11	1.63	0.72	32	1.17	0.42
12	1.79	0.90	33	1.21	0.45
13	1.47	0.69	34	1.13	0.43
14	1.61	0.73	35	1.19	0.46
15	1.72	0.81	36	1.24	0.74
16	1.46	0.67	37	1.18	0.66
17	1.52	0.66	38	1.35	0.88
18	1.45	0.72	39	1.21	0.49
19	1.47	0.74	40	1.36	0.64
クロンバックのアルファ係数					0.92

これらを症状群にみると（図４）、Ⅳ．全身倦怠293名（72.4%）、Ⅲ．関節・筋肉痛242名（60.2%）、Ⅱ．腰背痛216名（53.7%）、Ⅰ．血管運動障害様症状167名（43.4%）の順になる。また、ⅩⅢ.認知機能障害様症状180名（44.9%）、ⅩⅣ.皮膚症状151名（38%）、ⅩⅤ.毛髪症状124名（31.1%）もかなりの割合を有する。

１）　信頼性・妥当性

この調査表の内的整合性による信頼性は、クロンバックのα係数は0.92であり、（表３）さらに項目間相関係数（表４）を検討した。

また構成概念妥当性は因子分析を主成分法、バリマックス回転を用いて行った（表５）。

６つの因子が抽出された。第１因子が、「気分の変化」であり、第２因子が「ボディーイメージの変化」、第３因子が「性的身体感覚の変化」、第４因子「腰背痛」、第５因子「睡眠パターンの変化」、第６因子「体温知覚（ホットフラッシュ）の変化」をあげているが、累積寄与率は43.8%であった。第１因子の寄与率は13.7%であるが、第２因子以降は第６因子まで6.0%前後の寄与率であり、多次元性の特徴を持つ尺度であることがわかる。

併存概念妥当性は類似調査であるＳＭＩとの相関係数を明らかにした（表６）結果、全項目において有意差がみられた。

２）　年齢別比較（図５）

40才から５才毎に区分し比較した。40～44才に高い項目は、no5.腰が痛い、no10.興奮しやすい、no33.おりものに色がつく、no34.膣に乾いた感じがある、no35.膣にかゆみがあるであり、45～49才で高い項目はno3.腰や手足が冷える、no4.息切れがする、no21.手足の感覚がにぶる、no22.心臓の動悸がある、no23.めまいがある、no24はきけがある、no40.腹部膨満感があるであった。50～54才に高い項目は、no11.顔が熱くなる、no2.汗をかきやすい、no8.手足の節々の痛みがある、no12.神経質である、no13.不安感がある、no18.夜なかなか寝つかれない、no20.手足がしびれる、no26.物忘れする、no27.覚えられないであり、55才以上に多いのがno18.夜なかなか寝つかれない、no19.夜眠っても目を覚ましやすい、no29.髪のボリュームが少なくなる、no30.お小水が近い、no31.お小水が間に合わないであった。

３）　閉経時期別比較（図６）

閉経前、閉経後５年未満、５年以上の３群に分けて症状の比較を行った。閉経前と閉経後５年未満の間に有意差のみられた項目は、no1.顔が熱くなる、no2.汗をかきやすい、no8.手足の節々の痛みがある、no10.興奮しやすい、no27.覚えられないであり、５年以上に有意に高い項目は、no11.イライラする、no18.夜なかなか寝つかれない、no19.夜眠っても目をさましやすい、no34.膣に乾いた感じがある、no36.性交時痛みがあるであった。閉経前に高かった項目は、no33.おりものに色がつくであった。

４）　仕事の有無別比較（図７）

仕事は常勤、パート、なしの３種類で回答を求めた。有意差のあった項目はno1.顔が熱くなる、no2.汗をかきやすい、no17.意欲がわかない、no18.夜なかなか寝つかれない、no19.夜眠っても目を覚ましやすい、no22.心臓の動悸がする、no25.皮膚をアリがはうような感じがする、no37.のどがつかえるような感じがするであり、いづれも仕事のない人に症状が強くでていた。

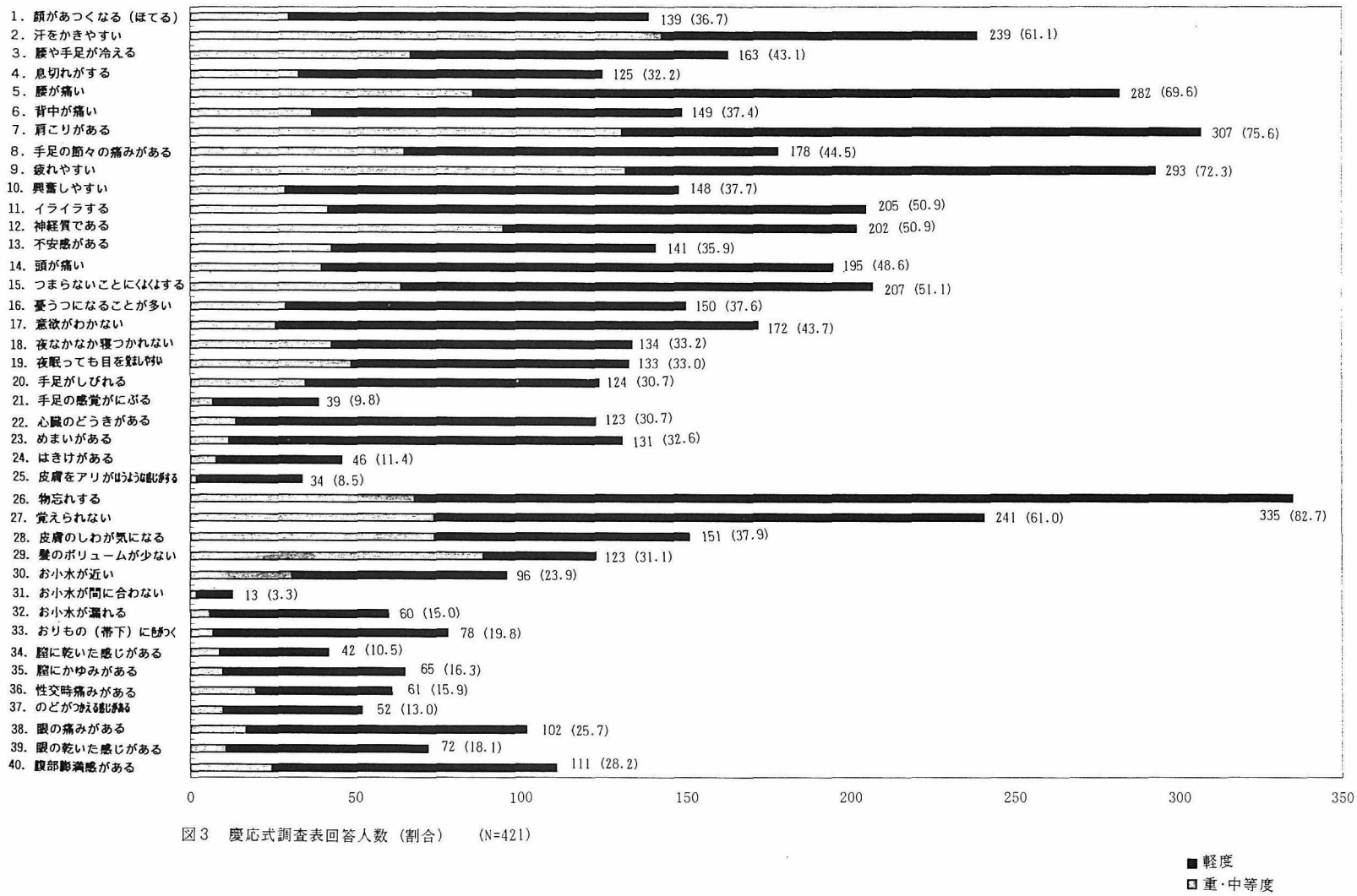


図3　慶応式調査表回答人数（割合）　(N=421)

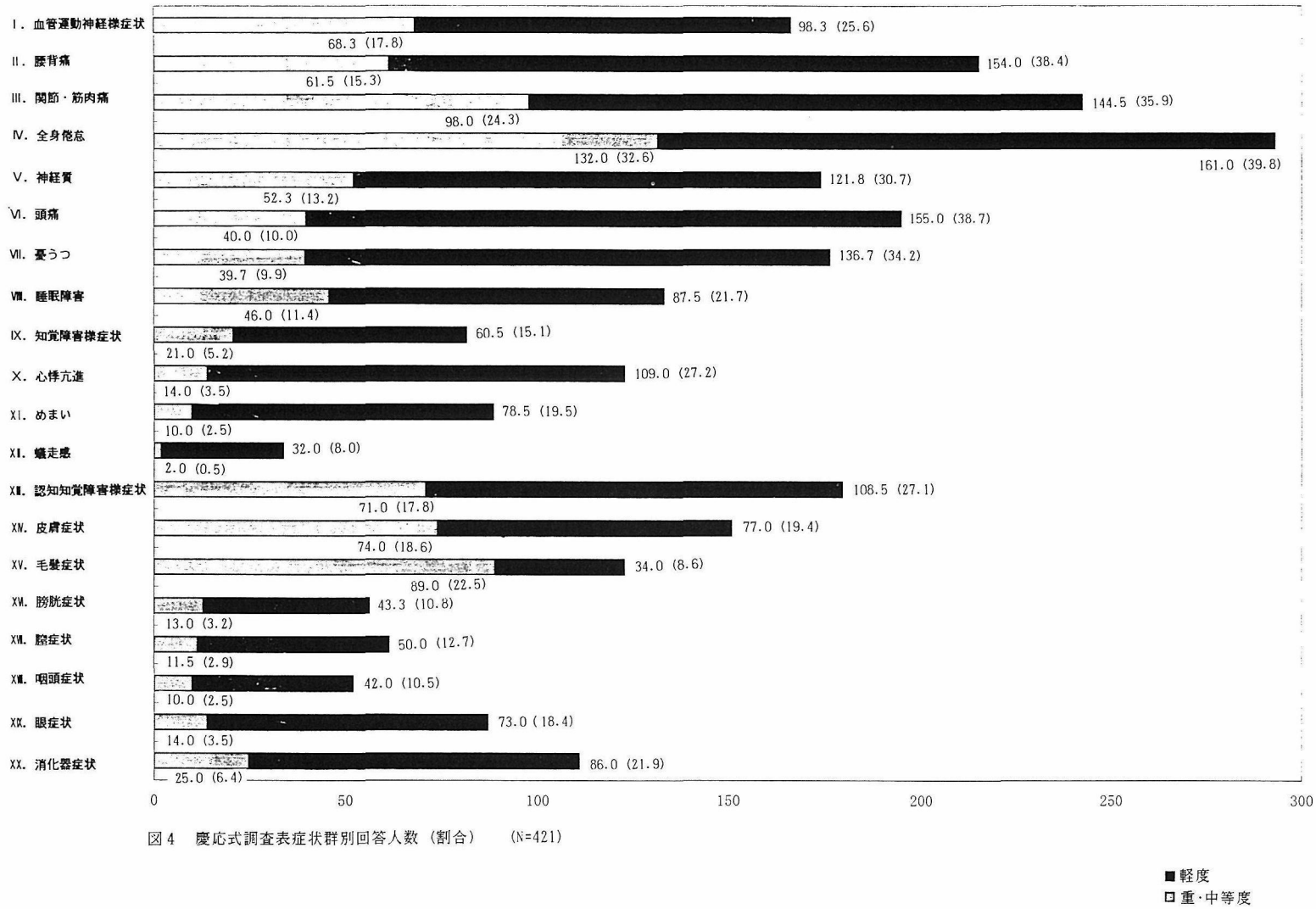


図4　慶応式調査表症状群別回答人数（割合）　(N=421)

表４　慶応式調査表　項目間相関係数　　(N=278　＊ p<0.05)

変数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
1	1.00	0.42*	0.23*	0.28*	0.14*	0.14*	0.15*	0.00	0.26*	0.25*	0.25*	0.24*	0.25*	0.35*	0.21*	0.17*	0.13*	0.14*	0.17*
2	0.42*	1.00	0.22*	0.33*	0.12*	0.09	0.20*	0.12*	0.24*	0.35*	0.30*	0.28*	0.32*	0.27*	0.27*	0.30*	0.27*	0.26*	0.27*
3	0.23*	0.22*	1.00	0.32*	0.17*	0.11	0.28*	0.19*	0.34*	0.22*	0.34*	0.25*	0.14*	0.30*	0.24*	0.16*	0.18*	0.09	0.03
4	0.28*	0.33*	0.32*	1.00	0.17*	0.13*	0.23*	0.21*	0.34*	0.26*	0.32*	0.24*	0.35*	0.25*	0.30*	0.28*	0.24*	0.17*	0.09
5	0.14*	0.12*	0.17*	0.17*	1.00	0.44*	0.31*	0.33*	0.34*	0.17*	0.22*	0.15*	0.21*	0.21*	0.21*	0.17*	0.16*	0.08	0.02
6	0.14*	0.09	0.11	0.13*	0.44*	1.00	0.31*	0.30*	0.27*	0.14*	0.19*	0.12	0.20*	0.23*	0.10	0.11	0.18*	0.13*	0.17*
7	0.15*	0.20*	0.28*	0.23*	0.31*	0.31*	1.00	0.26*	0.50*	0.29*	0.33*	0.31*	0.25*	0.37*	0.33*	0.22*	0.20*	0.12	0.11
8	0.00	0.12*	0.19*	0.21*	0.33*	0.30*	0.26*	1.00	0.27*	0.14*	0.09	0.22*	0.26*	0.12*	0.24*	0.16*	0.20*	0.08	0.09
9	0.26*	0.24*	0.34*	0.34*	0.34*	0.27*	0.50*	0.27*	1.00	0.44*	0.42*	0.42*	0.42*	0.41*	0.47*	0.44*	0.44*	0.20*	0.16*
10	0.25*	0.35*	0.22*	0.26*	0.17*	0.14*	0.29*	0.14*	0.44*	1.00	0.64*	0.47*	0.53*	0.33*	0.47*	0.49*	0.28*	0.29*	0.23*
11	0.25*	0.30*	0.34*	0.32*	0.22*	0.19*	0.33*	0.09	0.42*	0.64*	1.00	0.51*	0.48*	0.34*	0.56*	0.53*	0.37*	0.19*	0.13*
12	0.24*	0.28*	0.25*	0.24*	0.15*	0.12	0.31*	0.22*	0.42*	0.47*	0.51*	1.00	0.58*	0.25*	0.64*	0.45*	0.19*	0.38*	0.33*
13	0.25*	0.32*	0.14*	0.35*	0.21*	0.20*	0.25*	0.26*	0.42*	0.53*	0.48*	0.58*	1.00	0.30*	0.61*	0.57*	0.31*	0.38*	0.29*
14	0.35*	0.27*	0.30*	0.25*	0.21*	0.23*	0.37*	0.12*	0.41*	0.33*	0.34*	0.25*	0.30*	1.00	0.32*	0.22*	0.20*	0.14*	0.20*
15	0.21*	0.27*	0.24*	0.30*	0.21*	0.10	0.33*	0.24*	0.47*	0.47*	0.56*	0.64*	0.61*	0.32*	1.00	0.60*	0.35*	0.35*	0.29*
16	0.17*	0.30*	0.16*	0.28*	0.17*	0.11	0.22*	0.16*	0.44*	0.49*	0.53*	0.45*	0.57*	0.22*	0.60*	1.00	0.53*	0.31*	0.26*
17	0.13*	0.27*	0.18*	0.24*	0.16*	0.18*	0.20*	0.20*	0.44*	0.28*	0.37*	0.19*	0.31*	0.20*	0.35*	0.53*	1.00	0.17*	0.14*
18	0.14*	0.26*	0.09	0.17*	0.08	0.13*	0.12	0.08	0.20*	0.29*	0.19*	0.38*	0.38*	0.14*	0.35*	0.31*	0.17*	1.00	0.66*
19	0.17*	0.27*	0.03	0.09	0.02	0.17*	0.11	0.09	0.16*	0.23*	0.13*	0.33*	0.29*	0.20*	0.29*	0.26*	0.14*	0.66*	1.00
20	0.14*	0.23*	0.21*	0.27*	0.19*	0.13*	0.26*	0.27*	0.29*	0.26*	0.21*	0.11	0.26*	0.23*	0.12*	0.06	0.18*	0.22*	0.07
21	0.20*	0.20*	0.25*	0.35*	0.17*	0.12	0.24*	0.29*	0.28*	0.23*	0.19*	0.16*	0.23*	0.27*	0.19*	0.15*	0.24*	0.11	0.01
22	0.23*	0.26*	0.18*	0.60*	0.24*	0.18*	0.22*	0.28*	0.34*	0.30*	0.21*	0.25*	0.35*	0.24*	0.27*	0.27*	0.31*	0.24*	0.19*
23	0.22*	0.22*	0.27*	0.24*	0.20*	0.22*	0.29*	0.18*	0.28*	0.25*	0.20*	0.22*	0.20*	0.27*	0.18*	0.14*	0.15*	0.26*	0.27*
24	0.08	0.17*	0.21*	0.23*	0.15*	0.22*	0.23*	0.22*	0.28*	0.17*	0.18*	0.04	0.07	0.24*	0.18*	0.14*	0.18*	0.07	0.12*
25	0.12*	0.11	0.10	0.10	0.10	0.02	0.05	0.06	0.13*	0.04	0.11	0.10	0.19*	0.11	0.13*	0.12*	0.14*	0.08	0.14*
26	0.16*	0.23*	0.14*	0.33*	0.15*	0.15*	0.17*	0.19*	0.33*	0.41*	0.25*	0.24*	0.39*	0.15*	0.31*	0.27*	0.32*	0.14*	0.15*
27	0.20*	0.23*	0.16*	0.24*	0.10	0.14*	0.18*	0.22*	0.36*	0.29*	0.20*	0.19*	0.33*	0.11	0.16*	0.25*	0.36*	0.10	0.13*
28	0.01	-0.03	0.01	0.12*	0.03	0.09	0.10	0.01	0.19*	0.24*	0.17*	0.19*	0.27*	0.03	0.24*	0.30*	0.15*	0.11	0.12*
29	0.15*	0.17*	0.10	0.25*	0.10	0.06	0.06	0.05	0.14*	0.18*	0.16*	0.21*	0.16*	0.15*	0.15*	0.14*	0.19*	0.14*	0.06
30	0.08	0.15*	0.24*	0.22*	0.16*	0.15*	0.09	0.18*	0.19*	0.16*	0.15*	0.17*	0.24*	0.18*	0.24*	0.20*	0.11	0.13*	0.20*
31	-0.02	0.18*	0.15*	0.13*	0.12*	0.07	0.12*	0.23*	0.10	0.09	0.03	0.06	0.07	0.14*	0.03	0.01	0.00	0.08	0.00
32	-0.02	0.07	0.08	0.11	0.07	0.09	0.06	0.18*	0.04	0.05	0.02	0.05	0.07	0.09	0.02	0.01	-0.02	0.05	-0.04
33	0.11	0.07	0.10	0.09	0.06	0.18*	0.05	0.12*	0.08	0.08	0.09	0.02	0.14*	0.04	0.05	0.07	0.12*	0.07	0.12
34	0.11	0.09	0.06	0.15*	0.10	0.20*	-0.02	0.09	0.09	0.00	0.03	0.07	0.13*	0.02	0.15*	0.13*	0.27*	0.00	0.03
35	0.05	0.05	0.06	0.21*	0.17*	0.22*	0.13*	0.06	0.12*	0.05	0.09	0.02	0.09	0.06	0.10	0.05	0.12*	0.06	-0.01
36	0.19*	0.16*	0.12*	0.14*	0.04	0.19*	0.07	0.12*	0.09	0.02	0.02	0.15*	0.12*	0.00	0.11	0.03	0.19*	0.01	0.03
37	0.01	0.03	0.01	0.15*	0.12*	0.16*	-0.01	0.08	0.07	0.05	0.04	0.04	0.12*	0.11	0.07	0.05	0.05	0.04	0.01
38	0.05	0.03	0.11	0.15*	0.08	0.13*	0.07	0.08	0.11	0.05	0.08	0.06	0.08	0.09	-0.01	0.03	0.15*	0.06	0.05
39	0.09	0.09	0.22*	0.20*	0.07	0.07	0.11	0.08	0.22*	0.11	0.10	0.15*	0.14*	0.11	0.14*	0.09	0.14*	0.05	0.04
40	0.14*	0.17*	0.20*	0.24*	0.23*	0.23*	0.19*	0.11	0.28*	0.14*	0.09	0.11	0.16*	0.16*	0.14*	0.14*	0.25*	0.09	0.05

変数	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
1	0.14*	0.20*	0.23*	0.22*	0.08	0.12*	0.16*	0.20*	0.10	0.15*	0.08	-0.02	-0.02	0.11	0.11	0.05	0.19*	0.01	0.05	0.09	0.14*
2	0.23*	0.20*	0.26*	0.22*	0.17*	0.11	0.23*	0.23*	-0.03	0.17*	0.15*	0.18*	0.07	0.07	0.09	0.05	0.16*	0.03	0.03	0.09	0.17*
3	0.21*	0.25*	0.18*	0.27*	0.21*	0.10	0.14*	0.16*	0.01	0.10	0.24*	0.15*	0.08	0.10	0.06	0.06	0.12*	0.01	0.11	0.22*	0.20*
4	0.27*	0.35*	0.60*	0.24*	0.23*	0.10	0.33*	0.24*	0.12*	0.25*	0.22*	0.13*	0.11	0.09	0.15*	0.21*	0.14*	0.15*	0.15*	0.20*	0.24*
5	0.19*	0.17*	0.24*	0.20*	0.15*	0.10	0.15*	0.10	0.03	0.10	0.16*	0.12*	0.07	0.06	0.10	0.17*	0.04	0.12*	0.08	0.07	0.23*
6	0.13*	0.12	0.18*	0.22*	0.22*	0.02	0.15*	0.14*	0.09	0.06	0.15*	0.07	0.09	0.18*	0.20*	0.22*	0.19*	0.16*	0.13*	0.07	0.23*
7	0.26*	0.24*	0.22*	0.29*	0.23*	0.05	0.17*	0.18*	0.10	0.06	0.09	0.12*	0.06	0.05	-0.02	0.13*	0.07	-0.01	0.07	0.11	0.19*
8	0.27*	0.29*	0.28*	0.18*	0.22*	0.06	0.19*	0.22*	0.01	0.05	0.18*	0.23*	0.18*	0.12*	0.09	0.06	0.12*	0.08	0.08	0.08	0.11
9	0.29*	0.28*	0.34*	0.28*	0.28*	0.13*	0.33*	0.36*	0.19*	0.14*	0.19*	0.10	0.04	0.08	0.09	0.12*	0.09	0.07	0.11	0.22*	0.28*
10	0.26*	0.23*	0.30*	0.25*	0.17*	0.04	0.41*	0.29*	0.24*	0.18*	0.16*	0.09	0.05	0.08	0.00	0.05	0.02	0.05	0.05	0.11	0.14*
11	0.21*	0.19*	0.21*	0.20*	0.18*	0.11	0.25*	0.20*	0.17*	0.16*	0.15*	0.03	0.02	0.09	0.03	0.09	0.02	0.04	0.08	0.10	0.09
12	0.11	0.16*	0.25*	0.22*	0.04	0.10	0.24*	0.19*	0.19*	0.21*	0.17*	0.06	0.05	0.02	0.07	0.02	0.15*	0.04	0.06	0.15*	0.11
13	0.26*	0.23*	0.35*	0.20*	0.07	0.19*	0.39*	0.33*	0.27*	0.16*	0.24*	0.07	0.07	0.14*	0.13*	0.09	0.12*	0.12*	0.08	0.14*	0.16*
14	0.23*	0.27*	0.24*	0.27*	0.24*	0.11	0.15*	0.11	0.03	0.15*	0.18*	0.14*	0.09	0.04	0.02	0.06	0.00	0.11	0.09	0.11	0.16*
15	0.12*	0.19*	0.27*	0.18*	0.18*	0.13*	0.31*	0.16*	0.24*	0.15*	0.24*	0.03	0.02	0.05	0.15*	0.10	0.11	0.07	-0.01	0.14*	0.14*
16	0.06	0.15*	0.27*	0.14*	0.14*	0.12*	0.27*	0.25*	0.30*	0.14*	0.20*	0.01	0.01	0.07	0.13*	0.05	0.03	0.05	0.03	0.09	0.14*
17	0.18*	0.24*	0.31*	0.15*	0.18*	0.14*	0.32*	0.36*	0.15*	0.19*	0.11	0.00	-0.02	0.12*	0.27*	0.12*	0.19*	0.05	0.15*	0.14*	0.25*
18	0.22*	0.11	0.24*	0.26*	0.07	0.08	0.14*	0.10	0.11	0.14*	0.13*	0.08	0.05	0.07	0.00	0.06	0.01	0.04	0.06	0.05	0.09
19	0.07	0.01	0.19*	0.27*	0.12*	0.14*	0.15*	0.13*	0.12*	0.06	0.20*	0.00	-0.04	0.12	0.03	-0.01	0.03	0.01	0.05	0.04	0.05
20	1.00	0.46*	0.25*	0.29*	0.12*	0.17*	0.12*	0.14*	-0.07	0.18*	0.20*	0.25*	0.10	0.04	0.04	0.11	0.04	0.00	0.14*	0.15*	0.10
21	0.46*	1.00	0.25*	0.18*	0.07	0.07	0.15*	0.20*	0.04	0.32*	0.15*	0.44*	0.27*	0.11	-0.01	0.10	0.04	0.05	0.15*	0.09	0.18*
22	0.25*	0.25*	1.00	0.31*	0.15*	0.06	0.35*	0.33*	0.13*	0.20*	0.14*	0.10	0.14*	0.15*	0.20*	0.21*	0.18*	0.10	0.13*	0.14*	0.28*
23	0.29*	0.18*	0.31*	1.00	0.32*	0.11	0.14*	0.13*	-0.09	0.06	0.19*	0.14*	0.02	0.11	0.00	0.16*	0.09	0.01	0.14*	0.08	0.20*
24	0.12*	0.07	0.15*	0.32*	1.00	0.19*	0.11	0.06	0.02	0.04	0.17*	0.09	0.04	0.13*	0.06	0.15*	0.23*	0.03	0.09	0.00	0.24*
25	0.17*	0.07	0.06	0.11	0.19*	1.00	0.16*	0.14*	0.05	0.07	0.19*	0.12	0.08	0.07	0.13*	0.11	0.03	0.05	0.07	0.09	0.11
26	0.12*	0.15*	0.35*	0.14*	0.11	0.16*	1.00	0.59*	0.32*	0.19*	0.15*	0.08	0.15*	0.06	0.16*	0.14*	0.15*	0.02	0.05	0.11	0.22*
27	0.14*	0.20*	0.33*	0.13*	0.06	0.14*	0.59*	1.00	0.28*	0.15*	0.11	0.15*	0.23*	0.03	0.10	0.06	0.08	0.02	0.06	0.08	0.11
28	-0.07	0.04	0.13*	-0.09	0.02	0.05	0.32*	0.28*	1.00	0.21*	0.05	-0.05	0.01	0.00	0.11	0.05	-0.04	0.00	0.00	0.13*	0.12*
29	0.18*	0.32*	0.20*	0.06	0.04	0.07	0.19*	0.15*	0.21*	1.00	0.19*	0.13*	0.21*	0.16*	0.08	0.13*	0.14*	0.03	0.03	0.10	0.12*
30	0.20*	0.15*	0.14*	0.19*	0.17*	0.19*	0.15*	0.11	0.05	0.19*	1.00	0.16*	0.20*	0.17*	0.22*	0.10	0.14*	0.00	0.05	0.23*	0.14*
31	0.25*	0.44*	0.10	0.14*	0.09	0.12	0.08	0.15*	-0.05	0.13*	0.16*	1.00	0.55*	-0.01	-0.05	0.06	0.02	-0.02	0.03	-0.03	0.20*
32	0.10	0.27*	0.14*	0.02	0.04	0.08	0.15*	0.23*	0.01	0.21*	0.20*	0.55*	1.00	0.16*	0.05	0.06	0.02	0.00	0.02	0.04	0.14*
33	0.04	0.11	0.15*	0.11	0.13*	0.07	0.06	0.03	0.00	0.16*	0.17*	-0.01	0.16*	1.00	0.13*	0.26*	0.10	-0.04	0.01	0.02	0.12*
34	0.04	-0.01	0.20*	0.00	0.06	0.13*	0.16*	0.10	0.11	0.08	0.22*	-0.05	0.05	0.13*	1.00	0.19*	0.29*	0.01	0.11	0.10	0.12*
35	0.11	0.10	0.21*	0.16*	0.15*	0.11	0.14*	0.06	0.05	0.13*	0.10	0.06	0.06	0.26*	0.19*	1.00	0.26*	0.00	0.10	0.16*	0.28*
36	0.04	0.04	0.18*	0.09	0.23*	0.03	0.15*	0.08	-0.04	0.14*	0.14*	0.02	0.02	0.10	0.29*	0.26*	1.00	0.00	0.05	-0.03	0.17*
37	0.00	0.05	0.10	0.01	0.03	0.05	0.02	0.02	0.00	0.03	0.00	-0.02	0.00	-0.04	0.01	0.00	0.00	1.00	0.04	0.01	0.03
38	0.14*	0.15*	0.13*	0.14*	0.09	0.07	0.05	0.06	0.00	0.03	0.05	0.03	0.02	0.01	0.11	0.10	0.05	0.04	1.00	0.26*	0.13*
39	0.15*	0.09	0.14*	0.08	0.00	0.09	0.11	0.08	0.13*	0.10	0.23*	-0.03	0.04	0.02	0.10	0.16*	0.03	0.01	0.26*	1.00	0.14*
40	0.10	0.18*	0.28*	0.20*	0.24*	0.11	0.22*	0.11	0.12*	0.12*	0.14*	0.20*	0.14*	0.12*	0.12*	0.28*	0.17*	0.03	0.13*	0.14*	1.00

表5　慶応式調査表　因子分析：回転後の因子負荷量　バリマックス法　（N＝２７８）

変数名		因子１	因子２	因子３	因子４	因子５	因子６
第１因子	16)憂鬱になることが多い	0.7449	-0.0504	0.0724	0.0602	0.1868	-0.0050
	15)つまらないことにくよくよする	0.7235	-0.0412	0.0089	0.1413	0.2639	0.0975
	13)不安感がある	0.7068	0.1082	0.1013	0.0909	0.2992	0.0543
	10)興奮しやすい	0.7006	0.0877	-0.0678	0.0471	0.1433	0.2077
	11)イライラする	0.6933	-0.0517	-0.0774	0.1214	0.0338	0.2942
	12)神経質である	0.6474	0.0155	-0.0596	0.0617	0.3376	0.1256
	9)疲れやすい	0.6011	0.0697	0.0616	0.3843	-0.0465	0.2832
	26)もの忘れする	0.5505	0.2434	0.3653	-0.0015	-0.0535	-0.0894
	17)意欲がわかない	0.5142	-0.0085	0.3544	0.1381	-0.0464	0.0995
	28)皮膚のしわが気になる	0.5113	0.0300	0.1993	-0.0686	-0.0820	-0.3426
第２因子	31)お小水が間にあわない	-0.0418	0.7875	0.0901	0.1127	0.0692	0.0952
	32)お小水が漏れる	-0.0158	0.7554	0.0935	0.0349	0.0356	-0.1037
	21)手足の感覚がにぶい	0.2010	0.6100	0.0050	0.0754	-0.0809	0.3695
第３因子	34)膣に乾いた感じがある	0.0857	-0.0803	0.6283	0.0692	0.0153	-0.0561
	36)性交時痛みがある	-0.0237	-0.0667	0.5537	0.1213	0.0942	0.1229
	35)膣にかゆみがある	-0.0311	0.0267	0.5266	0.2480	0.0146	0.1073
第４因子	6)背中が痛い	0.1041	0.0362	0.2265	0.6908	0.1163	-0.0245
	5)腰が痛い	0.2013	0.1137	0.0509	0.6422	-0.0400	0.0620
	8)手足の節々の痛みがある	0.1890	0.3574	0.0505	0.5239	0.0479	-0.0421
	7)肩こりがある	0.3598	0.0778	-0.1267	0.5147	-0.0452	0.2865
第５因子	19)夜眠っても目を覚ましやすい	0.2158	-0.0310	0.0430	0.0399	0.8121	0.0132
	18)夜なかなか寝つかれない	0.2801	0.0908	-0.0096	0.0065	0.7576	0.0577
第６因子	1)顔が熱くなる	0.2348	-0.0656	0.1905	-0.1059	0.1377	0.5472
	3)腰や手足が冷える	0.2267	0.1093	0.0576	0.1614	-0.0846	0.5379
残余因子	2)汗をかきやすい	0.3042	0.1357	0.1411	-0.0966	0.2873	0.4498
	4)息切れがする	0.3556	0.2147	0.3427	0.0321	-0.0295	0.4376
	14)頭が痛い	0.3162	0.0826	-0.0923	0.2459	0.0864	0.4936
	20)手足がしびれる	0.1177	0.4002	-0.0184	0.1489	0.0732	0.4581
	22)心臓のどうきがある	0.3478	0.2174	0.3959	0.1289	0.0854	0.2465
	23)めまいがある	0.0753	0.0795	0.0501	0.3372	0.3332	0.4504
	24)はきけがある	0.0432	-0.0203	0.1918	0.4462	0.1193	0.2581
	25)皮膚をアリがはうような感じがする	0.0891	0.1264	0.2197	0.0348	0.1771	0.0949
	27)覚えられない	0.4928	0.3547	0.2768	-0.0268	-0.1082	-0.0847
	29)髪のボリュウームが少なくなる	0.2197	0.3548	0.2858	-0.1793	0.0412	0.1330
	30)お小水が近い	0.1167	0.2402	0.2731	0.1241	0.2622	0.1380
	33)おりもの（帯下）に色がつく	-0.0465	0.0939	0.3695	0.1449	0.2279	0.0345
	37)のどがつかえるような感じがする	0.0932	-0.0050	-0.0093	0.1948	-0.0271	-0.0282
	38)眼の痛みがある	0.0181	0.0055	0.2031	0.1160	-0.0802	0.2635
	39)眼の乾いた感じがある	0.1818	0.0007	0.2354	-0.0153	-0.1222	0.2636
	40)お腹のはった感じがある	0.1171	0.1508	0.3770	0.2943	-0.0174	0.1713
因子負荷量の２乗和		5.4899	2.4820	2.4405	2.4237	2.0612	2.6408
因子の寄与率（%）		13.7249	6.2051	6.1013	6.0592	5.1530	6.6020
累積寄与率（%）		13.7249	19.9300	26.0313	32.0905	37.2435	43.8455

表6　慶応式調査票とＳＭＩとの相関係数

項	相関係数	項	相関係数	項	相関係数	項	相関係数
1	0.56 **	11	0.68 **	21	0.36 **	31	0.15 **
2	0.60 **	12	0.56 **	22	0.43 **	32	0.14 **
3	0.63 **	13	0.57 **	23	0.41 **	33	0.13 **
4	0.55 **	14	0.54 **	24	0.34 **	34	0.20 **
5	0.35 **	15	0.60 **	25	0.20 **	35	0.23 **
6	0.30 **	16	0.60 **	26	0.31 **	36	0.19 **
7	0.54 **	17	0.45 **	27	0.34 **	37	0.10 *
8	0.28 **	18	0.53 **	28	0.21 **	38	0.13 **
9	0.64 **	19	0.42 **	29	0.26 **	39	0.26 **
10	0.59 **	20	0.37 **	30	0.31 **	40	0.30 **

(* $p<0.05$　　** $p<0.01$)

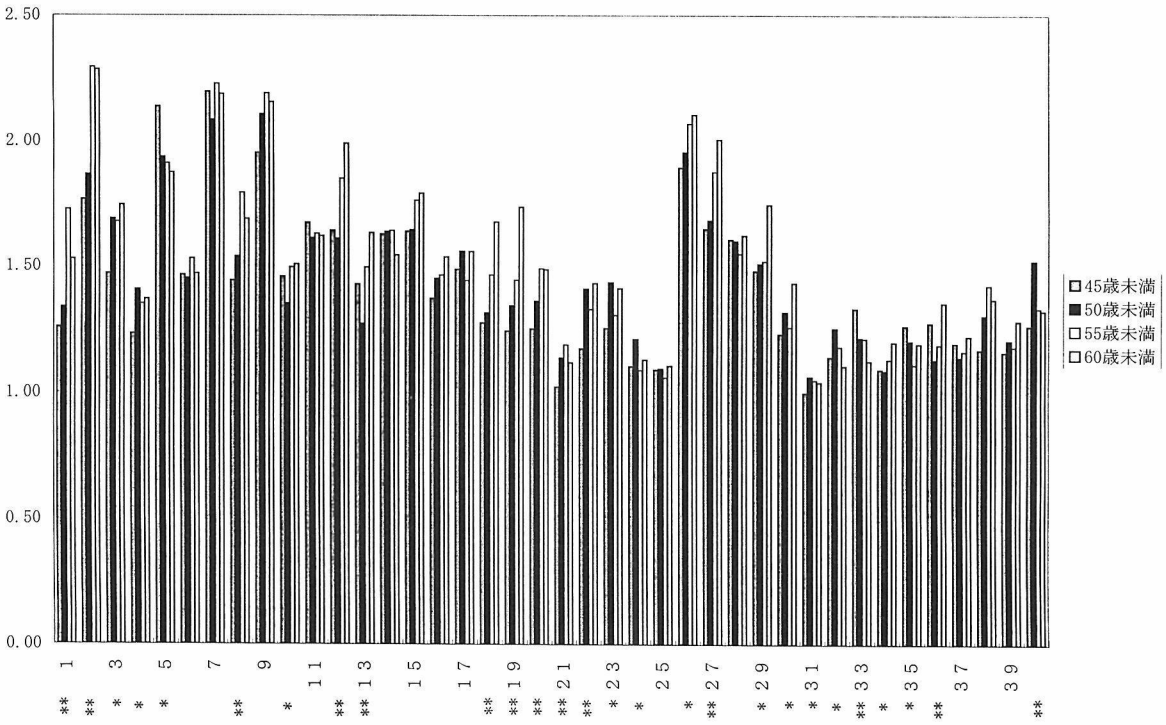


図５　慶応式調査表　年齢別比較　　(** p<0.01　* p<0.05)

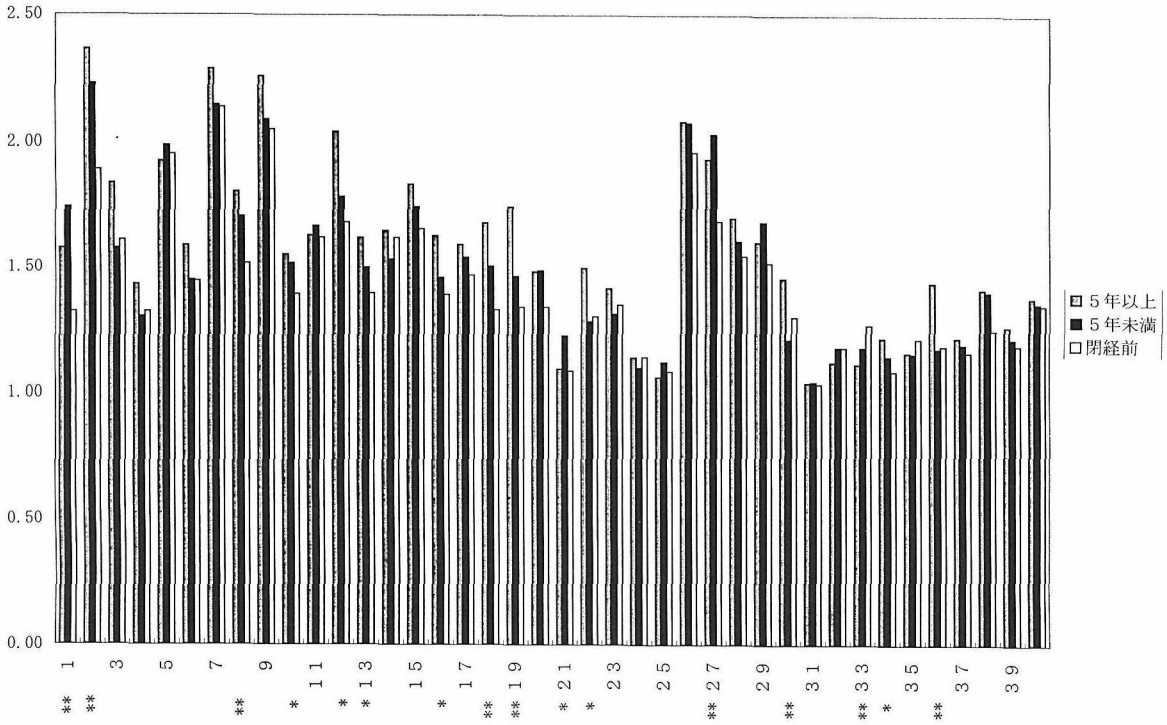


図6　慶応式調査表　閉経時期別比較　　(** p<0.01　* p<0.05)

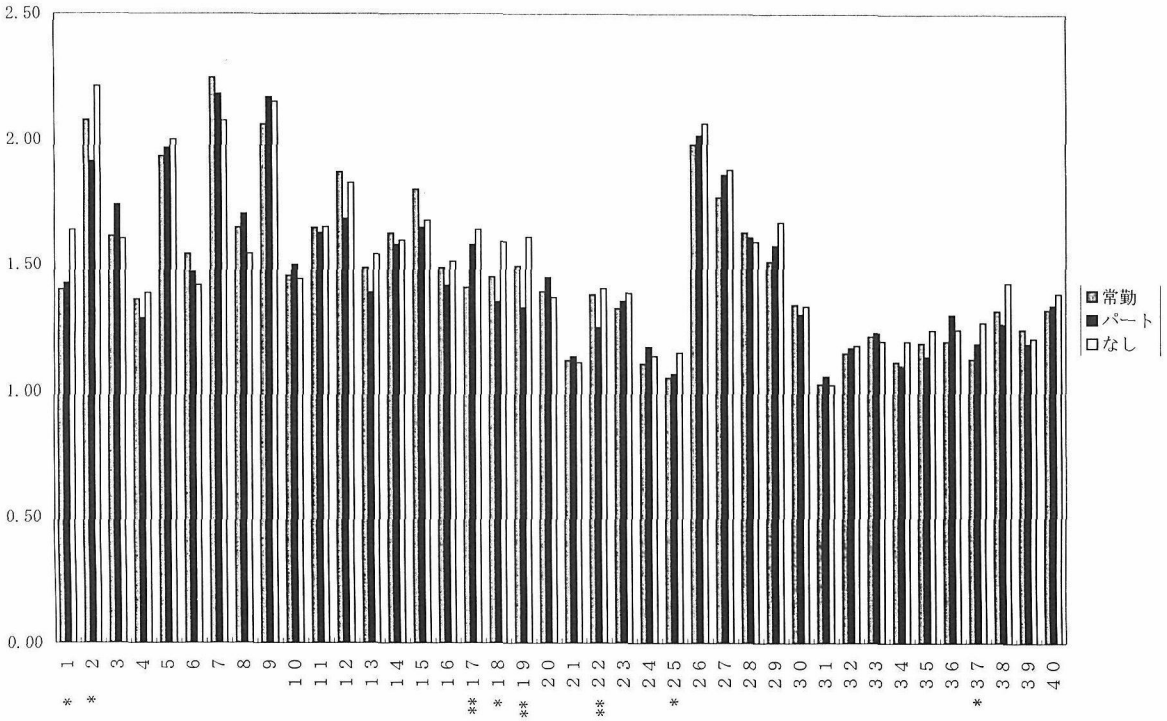


図7　慶応式調査表　仕事別比較　　(** p<0.01　* p<0.05)

５）　家族別比較

(1)親の同居別比較（図８）

親との同居による差は殆どなく、介護をしている人は20人と少数であるが、介護による差は全くなかった。

(2)同居末子の年齢別比較（図９）

同居末子が10才未満の子どもの母親はno5.腰が痛い、no6.背中が痛い、no11.神経質である、no33.おりものに色がつく、no37.のどがつかえるような感じがあるが高く、末子が20～29才の子どもの母親はno1.顔が熱くなる、no2.汗をかきやすい、no20.手足がしびれるが高く、末子が30才以上の母親は、no18.夜なかなか寝つかれない、no19.夜眠っても目を覚ましやすい、no27.覚えられないなどが高かった。

６）　通院（病気）の有無別比較（図１０）

通院の有無別にみると、通院している群はno12.神経質である、no13.不安感がある、no15.つまらないことにくよくよする、no16.憂うつになることが多い、no18.夜なかなか寝つかれない、no19.夜眠っても目を覚ましやすいなどが明らかに高い。

３　ＳＭＩに関する分析

本調査は東京医科歯科大学の小山によって開発された尺度[6]（表７）で、estrogen低下をよく反映させている、臨床症状と合っている、外来で短時間で実施できることに特徴をおいている。また、自己採点し健康管理にも活用するようにすすめており、自己採点の評価としては25点以下は良好､26～50点は要注意､51点以上を要受診としている。

外来受診患者の得点は一般に更年期障害で受診する場合は50～70点位が多く、それ未満は骨粗鬆症のみの場合や老年期婦人、健康管理目的が多く、また70点を越え、点数が多くなる程、心身症、精神的要因をもっている場合が多いと報告されている。

１）　信頼性・妥当性

ＳＭＩの内的整合性はクロンバックのα係数は0.77であった。構成概念妥当性は、項目間相関（表８）はすべての項目で低い相関関係があり、因子分析においては、第３因子までで累積寄与率は56.5％と高く、第１因子に「易疲感」で21％、第２因子「ホットフラッシュ」17％、第３因子「憂うつ」18％と焦点のしぼられた尺度である（表９）。

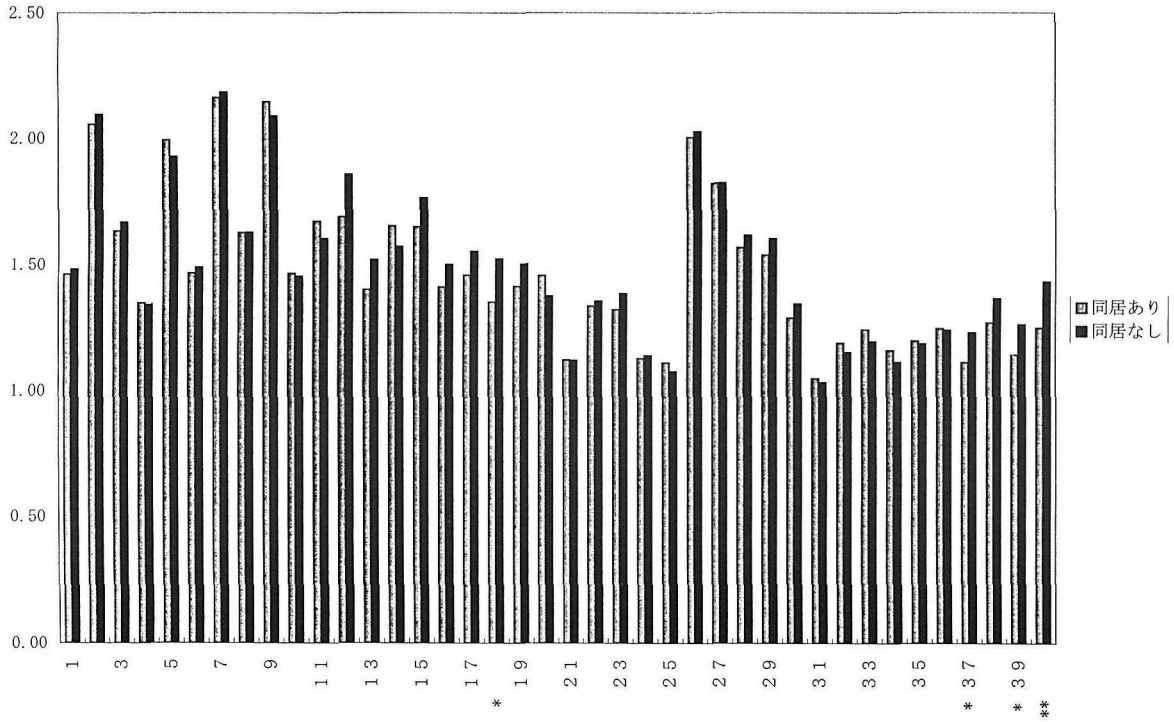


図８　慶応式調査表　親の同居別比較　　(** p<0.01　* p<0.05)

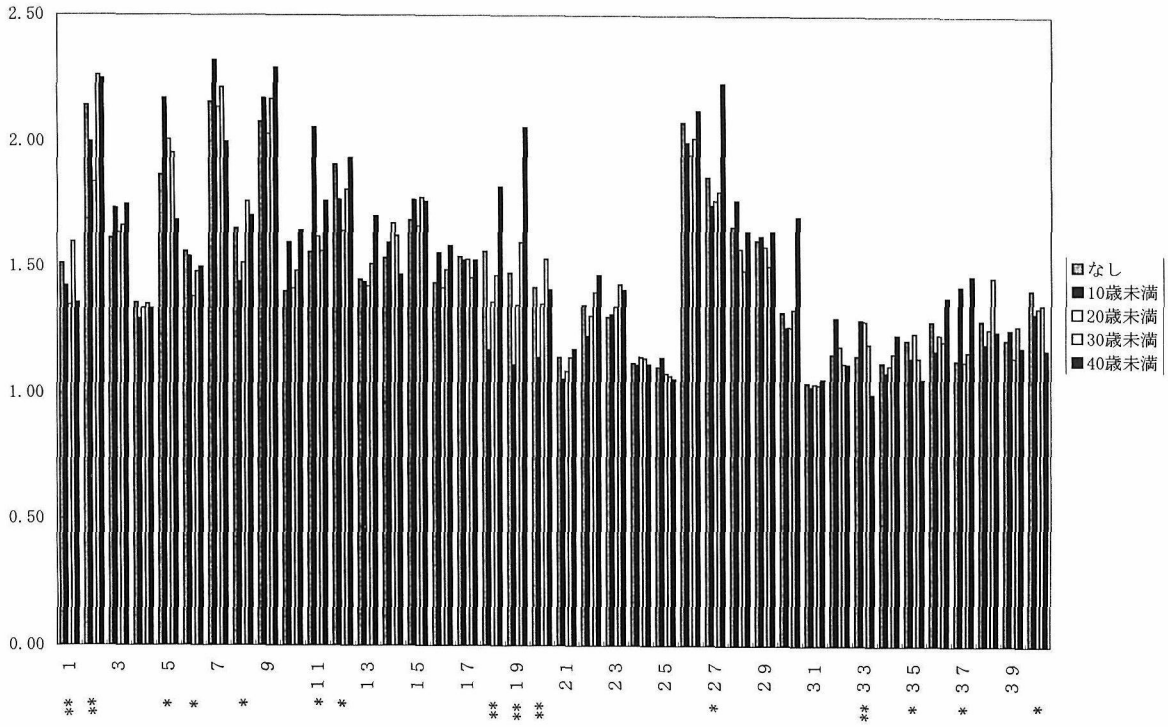


図９　慶応式調査表　同居の末子の年齢別比較　　（** p<0.01　* p<0.05）

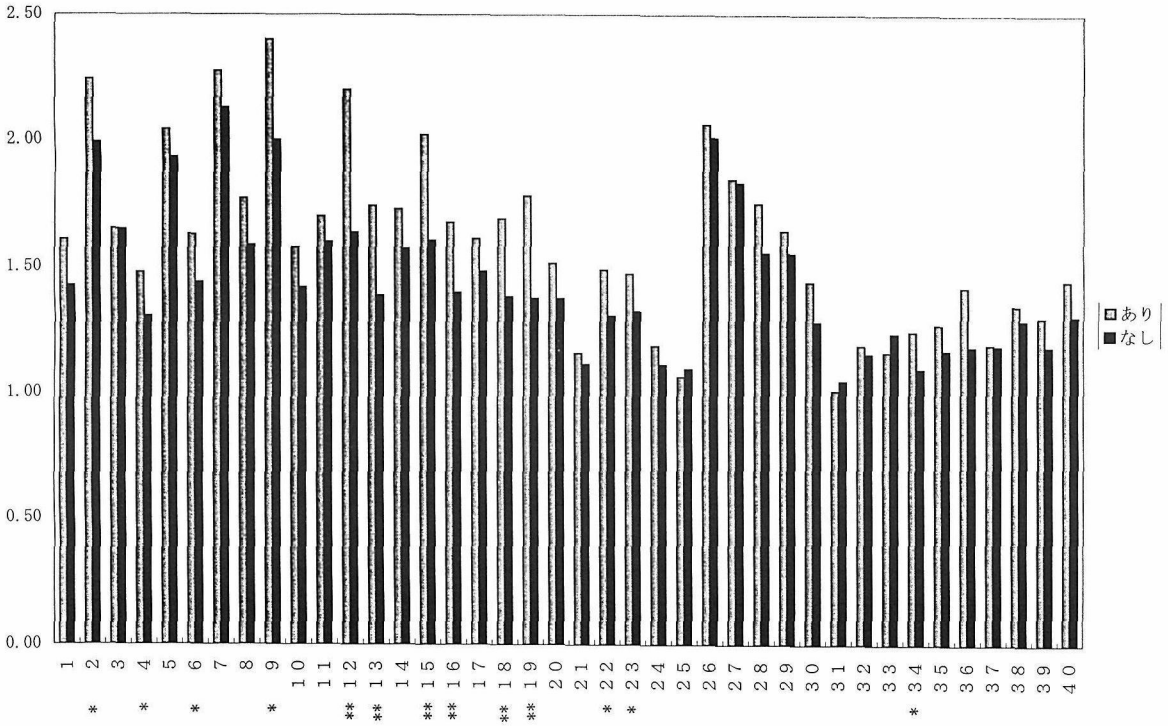


図１０　慶応式調査表　通院（病気）別比較　　（** p<0.01　* p<0.05）

表７　簡略更年期指数（ＳＭＩ）

症　　状	症状の程度（点数）			
	強	中	弱	無
1)顔がほてる	１０	６	３	０
2)汗をかきやすい	１０	６	３	０
3)腰や手足が冷えやすい	１４	９	５	０
4)息切れ・動機がする	１２	８	４	０
5)寝つきが悪い、または眠りが浅い	１４	９	５	０
6)怒りやすく、すぐイライラする	１２	８	４	０
7)くよくよしたり、憂うつになることがある	７	５	３	０
8)頭痛、めまい、吐きけがよくある	７	５	３	０
9)疲れやすい	７	４	２	０
10)肩こり、腰痛、手足の痛みがある	７	５	３	０
合計点				

症状の程度

強・・・強い苦痛を伴い、日常生活の支障が大きいもの

中・・・苦痛を伴うが、日常生活の支障はそれほど大きくないもの

弱・・・時々軽く自覚する程度で、日常生活への支障はほとんどないもの

無・・・なし

自己採点の評価法

０～２５点　良好

２６～５０点要注意

５１～６５点要受診

６６～８０点　長期的治療計画

８１～１００点各科の精密検査

治療効果

$$\frac{(\text{治療前合計点}) - (\text{治療後合計点})}{(\text{治療前合計点})}$$

著効：≦０．３

有効：０．３～０．７

無効：０．７≦

表８　ＳＭＩ項目間相関係数（N=350　＊ p<0.05）

変数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	1.00	0.45*	0.25*	0.27*	0.19*	0.25*	0.21*	0.31*	0.28*	0.15*
2	0.45*	1.00	0.19*	0.28*	0.27*	0.28*	0.29*	0.21*	0.24*	0.21*
3	0.25*	0.19*	1.00	0.27*	0.11*	0.36*	0.22*	0.28*	0.33*	0.26*
4	0.27*	0.28*	0.27*	1.00	0.19*	0.28*	0.31*	0.25*	0.28*	0.20*
5	0.19*	0.27*	0.11*	0.19*	1.00	0.25*	0.33*	0.13*	0.23*	0.18*
6	0.25*	0.28*	0.36*	0.28*	0.25*	1.00	0.55*	0.30*	0.42*	0.30*
7	0.21*	0.29*	0.22*	0.31*	0.33*	0.55*	1.00	0.25*	0.42*	0.24*
8	0.31*	0.21*	0.28*	0.25*	0.13*	0.30*	0.25*	1.00	0.37*	0.35*
9	0.28*	0.24*	0.33*	0.28*	0.23*	0.42*	0.42*	0.37*	1.00	0.47*
10	0.15*	0.21*	0.26*	0.20*	0.18*	0.30*	0.24*	0.35*	0.47*	1.00

表9　SMI 因子分析：回転後の因子負荷量 バリマックス法（N＝350）

変数名		因子1	因子2	因子3
第1因子	10)肩こりがある	0.7046	0.0006	0.1934
	9)疲れやすい	0.6659	0.1070	0.3812
	8)頭が痛い	0.6597	0.3116	-0.0109
	3)腰や手足が冷える	0.5985	0.2536	0.0509
第2因子	1)顔が熱くなる	0.1750	0.8282	0.0358
	2)汗をかきやすい	0.0313	0.7499	0.2979
第3因子	7)憂鬱になることが多い	0.2736	0.1046	0.7689
	5)夜なかなか寝つかれない	-0.0884	0.2124	0.7240
	6)イライラする	0.4532	0.1271	0.5994
残余因子	4)息切れがする	0.2692	0.4597	0.2584
因子負荷量の2乗和		2.1253	1.7047	1.8169
因子の寄与率（%）		21.2534	17.0474	18.1685
累積寄与率（%）		21.2534	38.3008	56.4693

併存概念妥当性は、先に述べた慶応式調査表との相関係数（表6）により、併存妥当性を支持しているといえよう。

2）　年齢別比較（図11）

SMIの得点分布は0点～78点であり、全体の得点平均は21.59点であった。年齢別平均をみると45才未満18.14点、45～49才19.31点でこの2群間に差はないが、50～54才になると24.20点となり有意差があった。

55～59才も23.88点であり、50才未満と有意差があった。

3）　閉経時期別比較（図12）

SMI得点は、閉経後5年以上25.83点、閉経後5年未満23.09点、閉経前19.24点であり閉経後5年以上と閉経前に有意差があった。

また、各々の時期別に、要受診（51点以上）、要注意（26点～50点）、正常（25点以下）の割合を比較したのが図13であり、要受診群は5年未満群から急増するが、要注意は徐々に増加といったパターンであった。

4）　仕事の有無別比較（図14）

SMI得点は、常勤21.46点、パート20.66点、なし22.91点であり、3群に差はなかった。

5）　同居家族別比較（図15・16）

親の同居別比較、介護の有無別比較、同居の末子年齢別比較からも差は認めなかった。

6）　通院（病気）の有無別比較（図17）

SMI得点は通院群25.82点であり、非通院群は20.05点であり有意差があった。

4　SDSに関する分析

本調査は1964年にDuke Medical CenterのW.W.Zungが開発した自己評価式抑うつ尺度[31]であり、本邦においてもその有用性が評価され諸研究に用いられている[44)-46)]（表10）。

1）　信頼性・妥当性

SDSの内的整合性はクロンバックのα係数で0.78であり、項目間相関係数（表11）をみたところ弱い相関関係である。

構成概念妥当性は、因子分析においては第5因子まで抽出し、累積寄与率は52.9%であり、第1因子は「現状・将来への不安感」17%、第2因子は「憂うつ」13%、第3因子は「他者との関係」7%、第4因子「生活の不安定感」9%、第5因子「身体的不調」7%であり、多次元性の尺度であることがうかがえる。（表12）

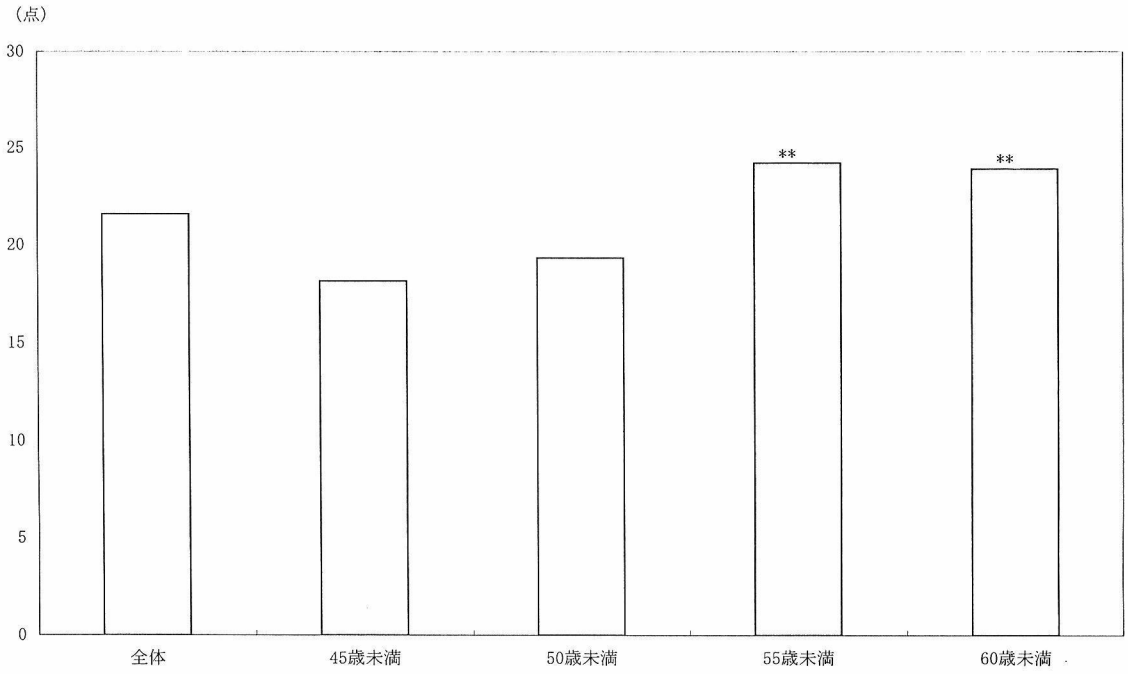


図１１　ＳＭＩ年齢別得点平均比較　　(** p<0.01)

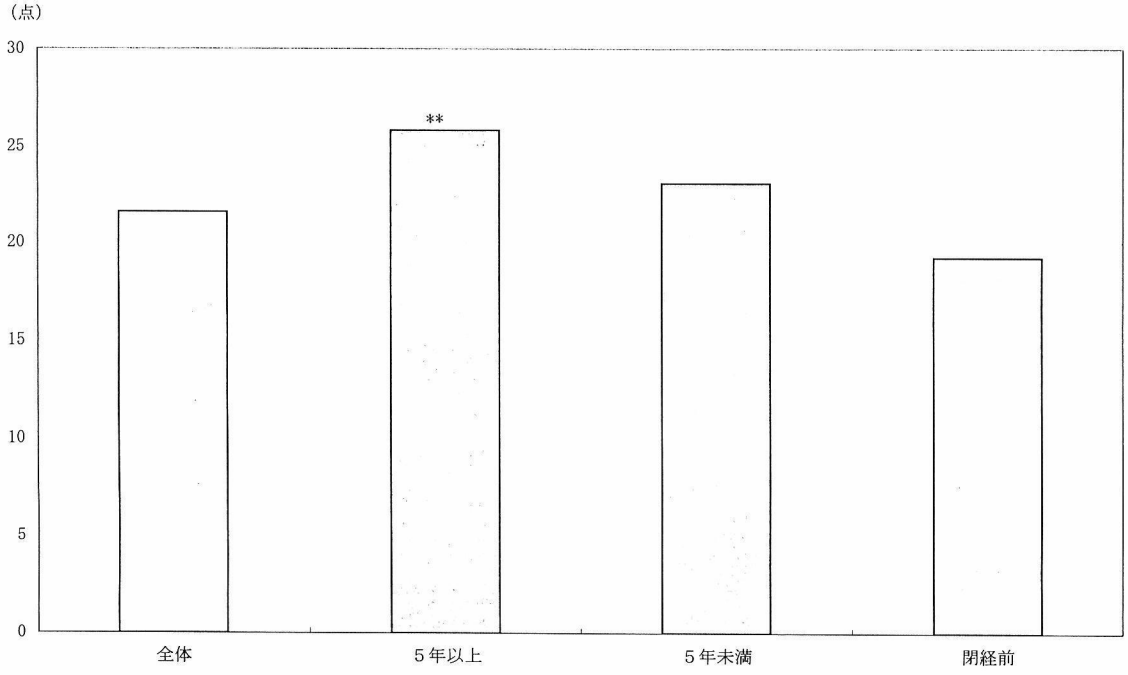


図１２　ＳＭＩ閉経時期別得点平均　　(** p<0.01)

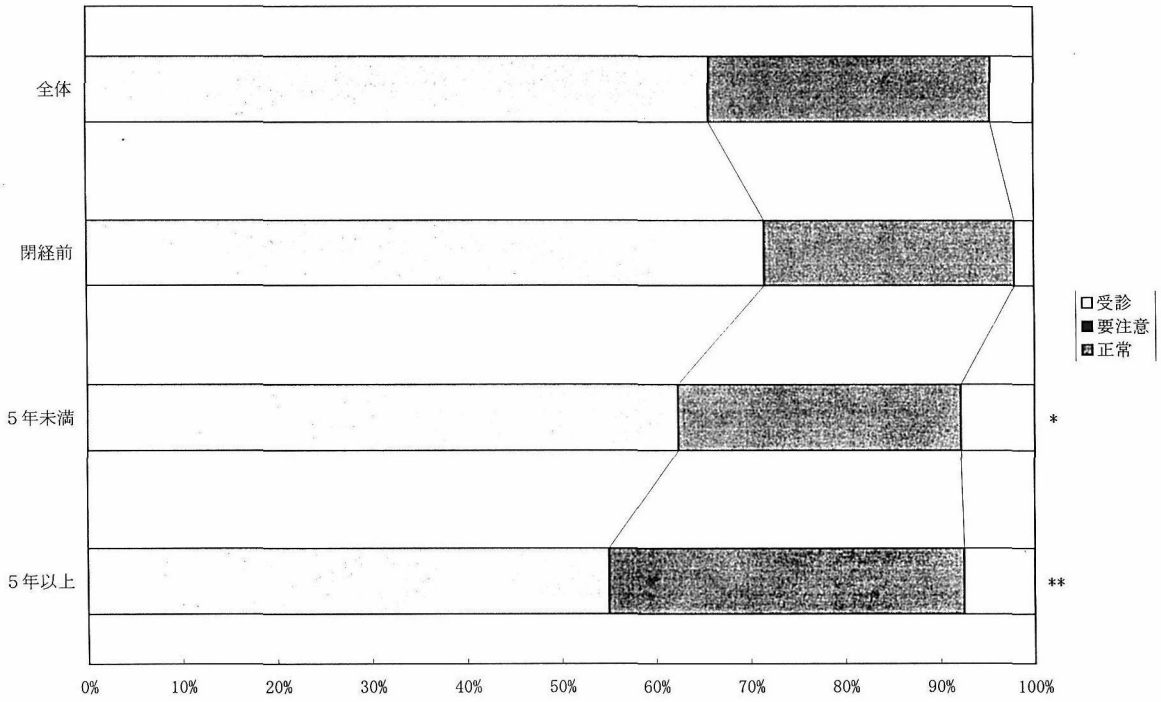


図１３　ＳＭＩの得点からみた閉経時期別の判定割合　(** p<0.01　* p<0.05)

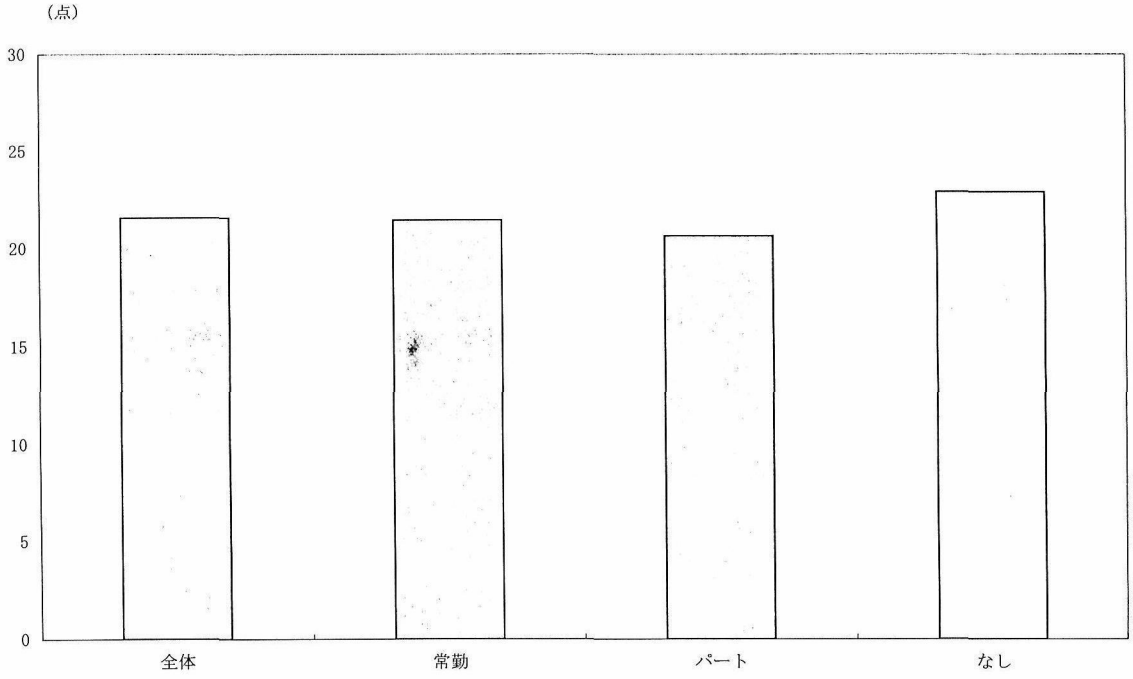


図１４　ＳＭＩ仕事別得点平均比較

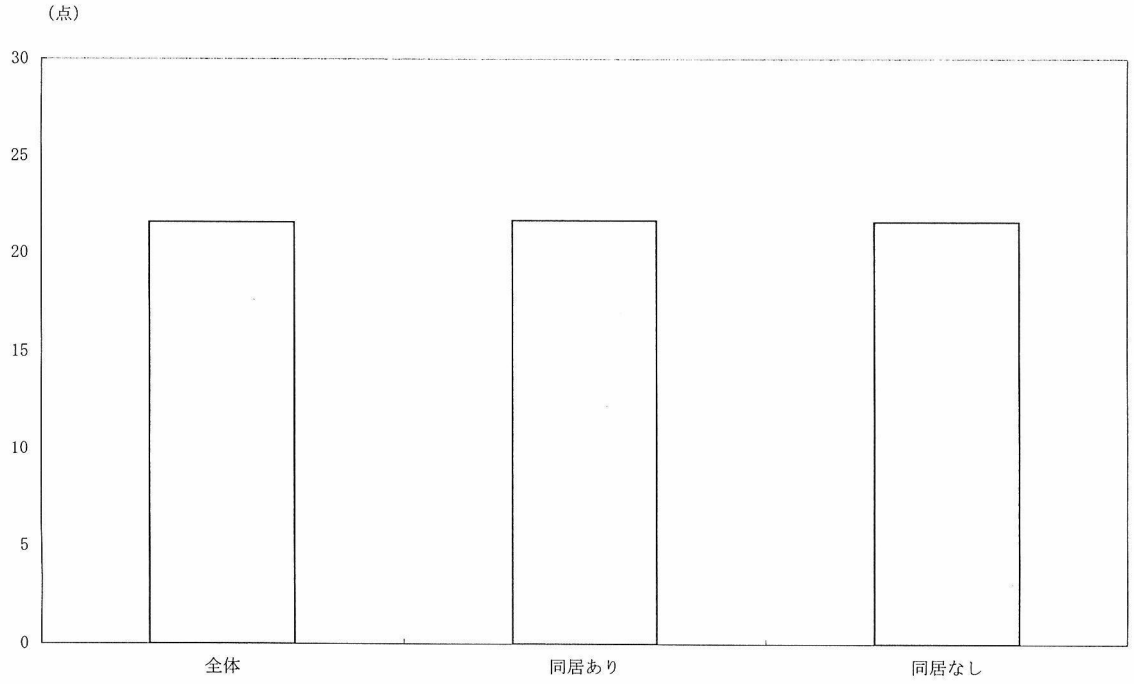


図１５　ＳＭＩ親の同居別得点平均比較

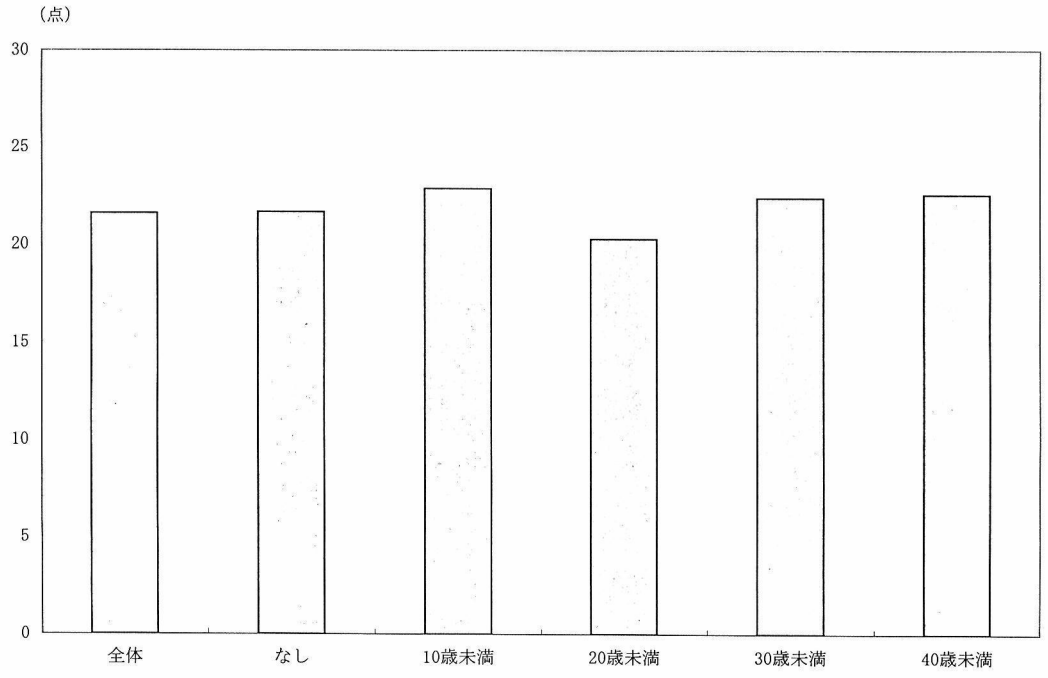


図１６　ＳＭＩ同居の末子の年齢別得点平均

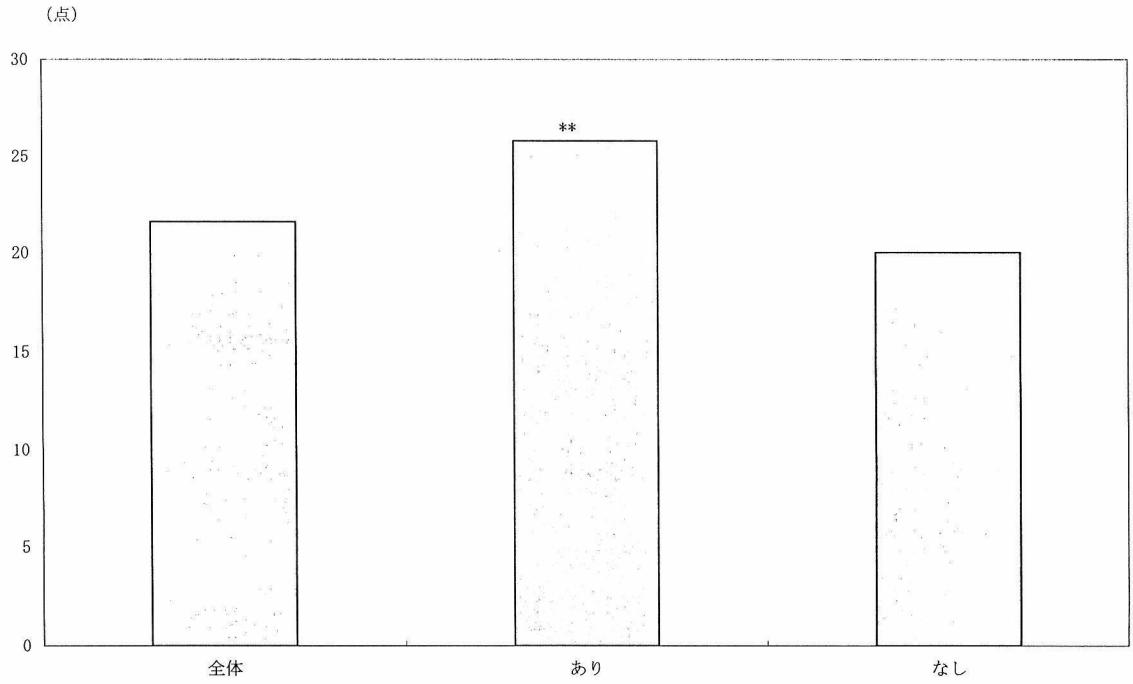


図１７　ＳＭＩ通院（病気）別得点平均　(** p<0.01)

２）　年齢別比較（図１８）

ＳＤＳの得点分布は24～60点であり、全体の得点平均は40.47点であり、年齢別にみると45才未満41.30点、45～49才39.40点、50～54才39.89点、55～59才41.10点であった。年齢別の差はなかった。

３）　閉経時期別比較（図１９）

ＳＤＳ得点は、閉経後５年以上41.30点、閉経後５年未満40.47点、閉経前40.08点であり、時期別においても差はなかった。

また、各々の時期別に境界群（４０点以上）の割合を示したのが図２０であり、閉経前と５年以上の群に有意差がみられた。

うつ状態の判定基準を４８点にしたものが図２１である。うつ状態の割合閉経前の11.6%に比し、閉経後５年未満17.2%、閉経後５年以上22.1%で増加するが統計的には閉経前と閉経後５年以上に有意に差がみられた。

４）　仕事の有無別比較（図２２）

ＳＤＳ得点は、常勤40.82点、パート40.27点、なし40.33点であり、差はなかった。

５）　家族別比較（図２３・２４）

親の同居別比較、介護の有無別比較、同居末子の年齢別比較ともに差はなかったが、10才未満の末子と同居している親は42.32点で有意水準10%で差があった。

６）　通院（病気）の有無別比較（図２５）

ＳＤＳ得点は通院群41.73点、非通院群39.95点であり有意水準10%で差があった。

７）　ＳＤＳとＳＭＩの関連（図２６）

ＳＤＳとＳＭＩの相関係数は0.446であった。

表１０　Ｚｕｎｇの自己評価式抑うつ尺度（ＳＤＳ）　今回の調査用順変更版

項　　目	なし	時々ある	ある	非常にある
1.気が沈んで、憂うつだ	1	2	3	4
2.ささいなことで泣いたり，泣きたくなる	1	2	3	4
3.夜、よく眠れない	1	2	3	4
4.最近やせてきた	1	2	3	4
5.便秘している	1	2	3	4
6.ふだんより動悸がする	1	2	3	4
7.食欲は普通にある	1	2	3	4
8.落ちつかず、じっとしていられない	1	2	3	4
9.イライラする	1	2	3	4
10.自分が死んだほうがほかの人は楽に暮らせ思う	1	2	3	4
11.朝方一番気分がいい	4	3	2	1
12.食欲はふつうにある	4	3	2	1
13.異性の友人とつきあっている（茶飲み友達	4	3	2	1
14.気持ちはいつもさっぱりしている	4	3	2	1
15.いつもと変わりなく仕事ができる	4	3	2	1
16.将来に希望がある	4	3	2	1
17.迷わずに物事をきめることができる	4	3	2	1
18.役に立つ人間だと思う	4	3	2	1
19.今の生活に満足している	4	3	2	1
20.今の生活は充実している	4	3	2	1
合　　計				

判定

正常群：３９点以下

境界群：４０～４７点

うつ状態群：４８点以上

表11　SDS項目間相関係数　(N=299　* p<0.05)

変数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
1	1.00	0.42*	0.32*	0.13*	0.11	0.24*	0.41*	0.32*	0.43*	0.11	0.10	-0.04	-0.13*	0.17*	0.06	0.17*	0.15*	0.12*	0.21*	0.19*
2	0.42*	1.00	0.26*	0.14*	0.11	0.20*	0.26*	0.18*	0.38*	0.11	0.09	0.04	-0.10	0.14*	0.09	0.11	0.15*	0.13*	0.12*	0.12*
3	0.32*	0.26*	1.00	0.09	0.19*	0.23*	0.25*	0.33*	0.16*	0.11	-0.01	-0.07	-0.08	0.02	0.03	0.17*	0.06	0.04	0.02	-0.01
4	0.13*	0.14*	0.09	1.00	0.03	0.13*	0.08	0.07	0.01	0.01	0.08	0.08	0.04	-0.01	0.07	0.07	0.06	0.03	0.04	0.00
5	0.11	0.11	0.19*	0.03	1.00	0.06	0.03	0.05	0.03	0.06	0.12*	-0.01	0.01	-0.02	-0.01	0.06	0.12*	0.02	0.01	-0.10
6	0.24*	0.20*	0.23*	0.13*	0.06	1.00	0.28*	0.16*	0.11	0.03	0.03	-0.01	0.01	0.11	-0.01	0.16*	0.09	0.08	0.02	0.05
7	0.41*	0.26*	0.25*	0.08	0.03	0.28*	1.00	0.15*	0.35*	-0.01	0.11	-0.15*	0.05	0.13*	0.02	0.13*	0.11	0.04	0.12*	0.07
8	0.32*	0.18*	0.33*	0.07	0.05	0.16*	0.15*	1.00	0.22*	0.10	0.05	-0.03	-0.20*	-0.02	0.05	0.11	0.06	0.05	0.07	0.06
9	0.43*	0.38*	0.16*	0.01	0.03	0.11	0.35*	0.22*	1.00	0.09	0.06	-0.08	-0.05	0.09	-0.01	0.13*	0.09	0.02	0.17*	0.09
10	0.11	0.11	0.11	0.01	0.06	0.03	-0.01	0.10	0.09	1.00	0.10	-0.05	-0.08	0.11	0.01	0.14*	0.10	0.17*	0.14*	0.09
11	0.10	0.09	-0.01	0.08	0.12*	0.03	0.11	0.05	0.06	0.10	1.00	0.34*	0.09	0.30*	0.29*	0.31*	0.22*	0.28*	0.33*	0.16*
12	-0.04	0.04	-0.07	0.08	-0.01	-0.01	-0.15*	-0.03	-0.08	-0.05	0.34*	1.00	0.04	0.23*	0.45*	0.20*	0.12*	0.16*	0.22*	0.26*
13	-0.13*	-0.10	-0.08	0.04	0.01	0.01	0.05	-0.20*	-0.05	-0.08	0.09	0.04	1.00	0.26*	0.17*	0.07	0.18*	0.08	0.08	-0.05
14	0.17*	0.14*	0.02	-0.01	-0.02	0.11	0.13*	-0.02	0.09	0.11	0.30*	0.23*	0.26*	1.00	0.63*	0.37*	0.47*	0.34*	0.51*	0.38*
15	0.06	0.09	0.03	0.07	-0.01	-0.01	0.02	0.05	-0.01	0.01	0.29*	0.45*	0.17*	0.63*	1.00	0.29*	0.40*	0.26*	0.40*	0.29*
16	0.17*	0.11	0.17*	0.07	0.06	0.16*	0.13*	0.11	0.13*	0.14*	0.31*	0.20*	0.07	0.37*	0.29*	1.00	0.51*	0.46*	0.59*	0.33*
17	0.15*	0.15*	0.06	0.06	0.12*	0.09	0.11	0.06	0.09	0.10	0.22*	0.12*	0.18*	0.47*	0.40*	0.51*	1.00	0.50*	0.54*	0.32*
18	0.12*	0.13*	0.04	0.03	0.02	0.08	0.04	0.05	0.02	0.17*	0.28*	0.16*	0.08	0.34*	0.26*	0.46*	0.50*	1.00	0.59*	0.27*
19	0.21*	0.12*	0.02	0.04	0.01	0.02	0.12*	0.07	0.17*	0.14*	0.33*	0.22*	0.08	0.51*	0.40*	0.59*	0.54*	0.59*	1.00	0.52*
20	0.19*	0.12*	-0.01	0.00	-0.10	0.05	0.07	0.06	0.09	0.09	0.16*	0.26*	-0.05	0.38*	0.29*	0.33*	0.32*	0.27*	0.52*	1.00

表12　SDS 因子分析：回転後の因子負荷量 バリマックス法　（N＝299）

	変数名	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
第1因子	19)今の生活は充実していると思わない	0.8257	0.1092	0.0218	0.1691	-0.1072
	18)役立つ人間だと思わない	0.7505	-0.0286	0.0205	0.0252	0.1001
	17)迷わずに物事を決める事ができない	0.7442	0.0863	-0.1891	0.0660	0.1133
	16)将来に希望がない	0.7222	0.1117	0.0158	0.1104	0.1501
	14)気持ちはいつもさっぱりしていない	0.5984	0.1716	-0.3182	0.3579	-0.1342
	20)今の生活に満足していない	0.5216	0.1520	0.1989	0.2708	-0.3716
第2因子	1)憂鬱になることが多い	0.1575	0.7374	0.1918	0.0263	0.0634
	7)疲れやすい	0.0738	0.7152	-0.2422	-0.1294	0.0028
	9)イライラする	0.1142	0.6694	0.0965	-0.1202	-0.1524
	2)ささいなことで泣いたり、泣きたくなる	0.0902	0.6146	0.1522	0.1267	0.1136
第3因子	13)異性の友人とつきあっていない(茶飲み友達)	0.1393	-0.0586	-0.7961	0.0221	0.0680
第4因子	12)食欲はふつうにない	0.1310	-0.1373	0.0799	0.8146	-0.0300
	15)いつも変わりなく仕事(家事)ができない	0.4062	0.0455	-0.1920	0.6552	-0.0620
第5因子	5)便秘している	0.0682	-0.0116	-0.0356	-0.0284	0.7187
	3)夜眠っても目を覚ましやすい	0.0369	0.4325	0.1752	-0.0287	0.5000
残余因子	4)最近、やせてきた	-0.1150	0.1940	-0.0666	0.3521	0.3250
	6)心臓のどうきがある	0.0284	0.4546	-0.1522	0.0186	0.2672
	8)おちつかず、じっとしていられない	0.0472	0.3847	0.4700	0.0681	0.2276
	10)自分が死んだ方が他の人は楽に暮らせると思う	0.3595	-0.0313	0.3602	-0.2108	0.2256
	11)朝方一番気分がよくない	0.3444	0.0246	-0.0269	0.4688	0.2056
因子負荷量の2乗和		3.4736	2.5717	1.3936	1.7833	1.3510
因子の寄与率（%）		17.3682	12.8586	6.9679	8.9164	6.7551
累積寄与率（%）		17.3682	30.2268	37.1947	46.1111	52.8662

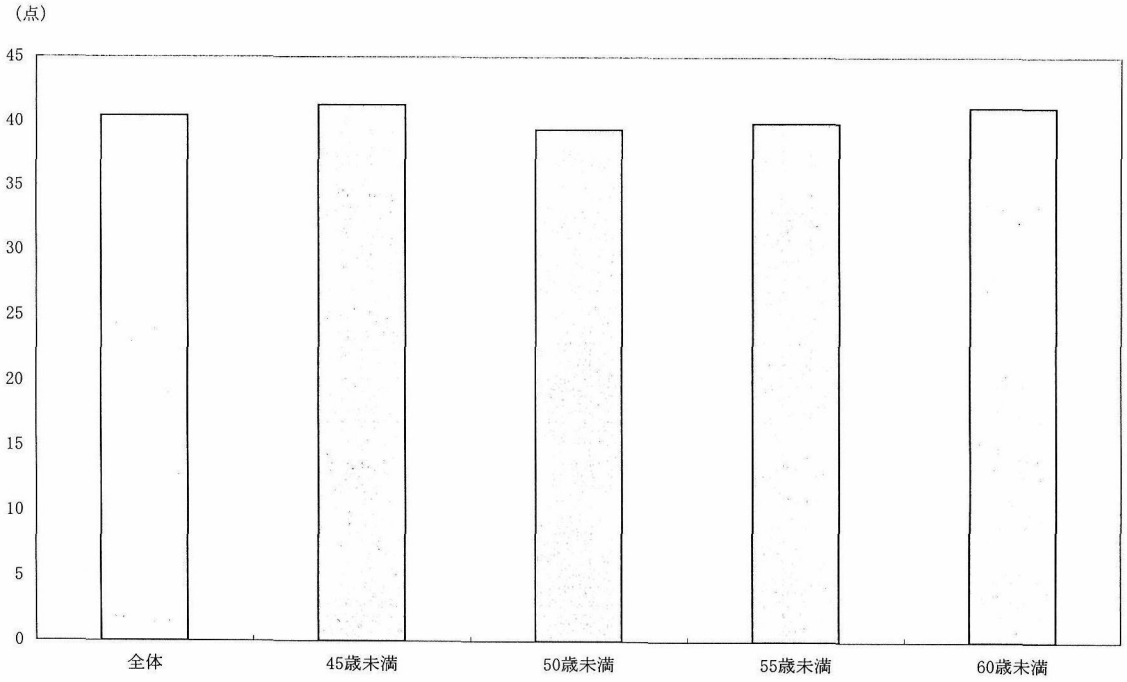


図１８　ＳＤＳ年齢別得点平均比較

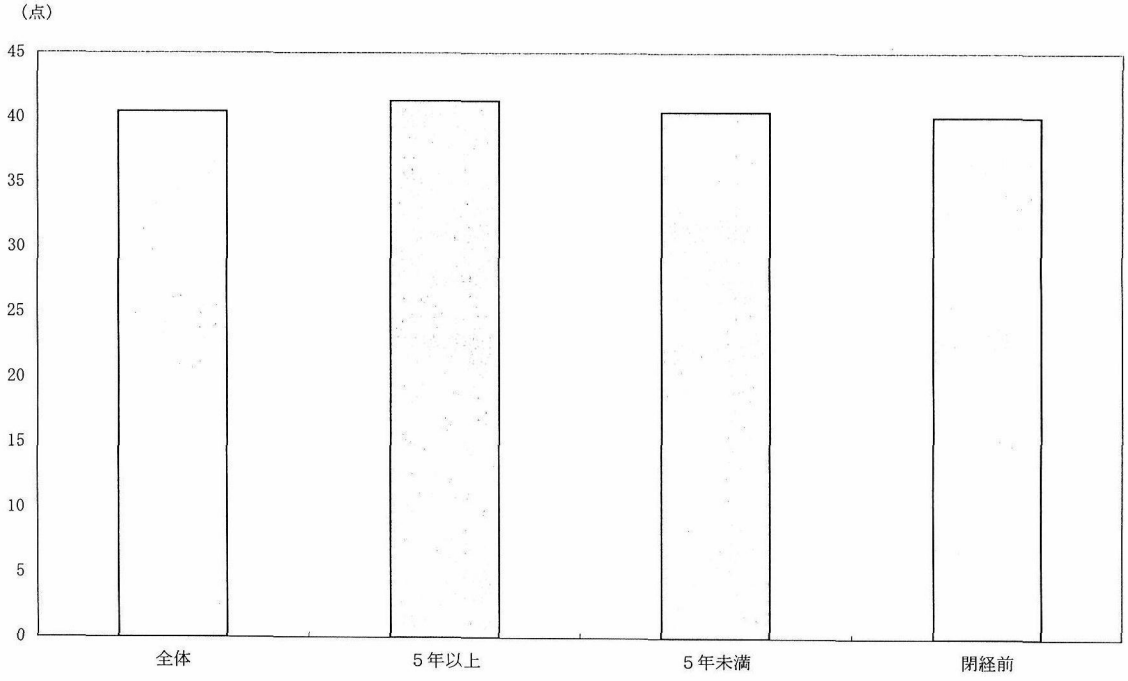


図１９　ＳＤＳ閉経時期別得点平均比較

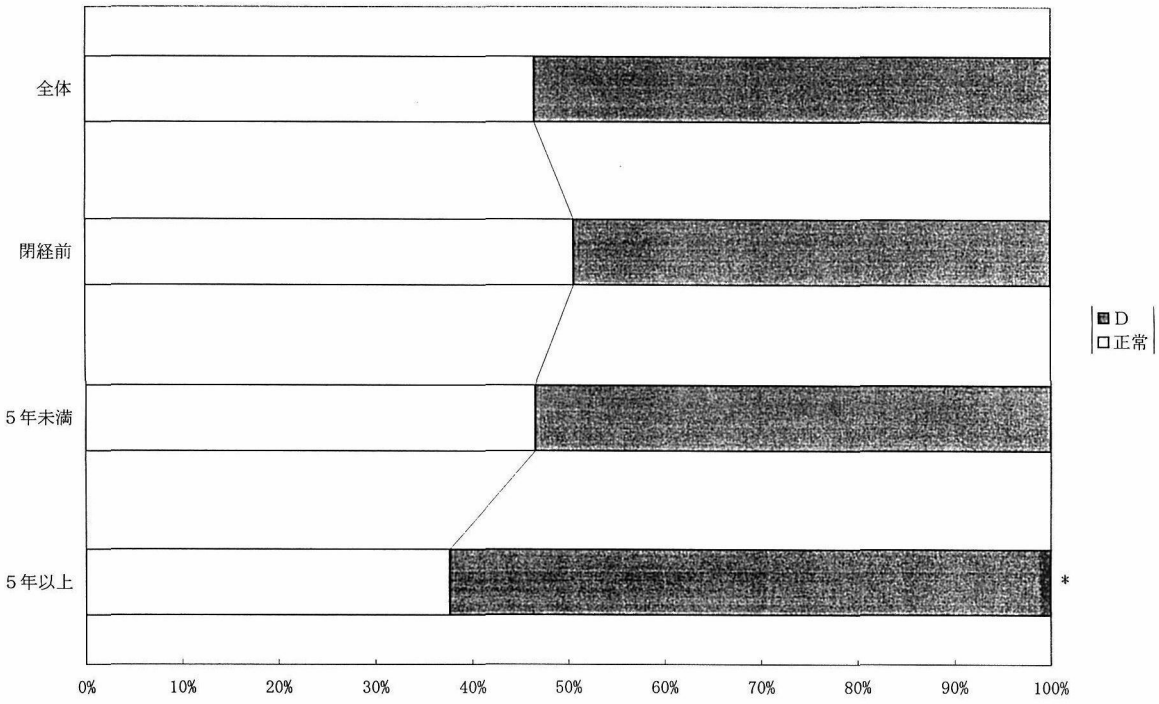


図２０　ＳＤＳの得点よりみた閉経時期別判定割合　(＊ p<0.05)

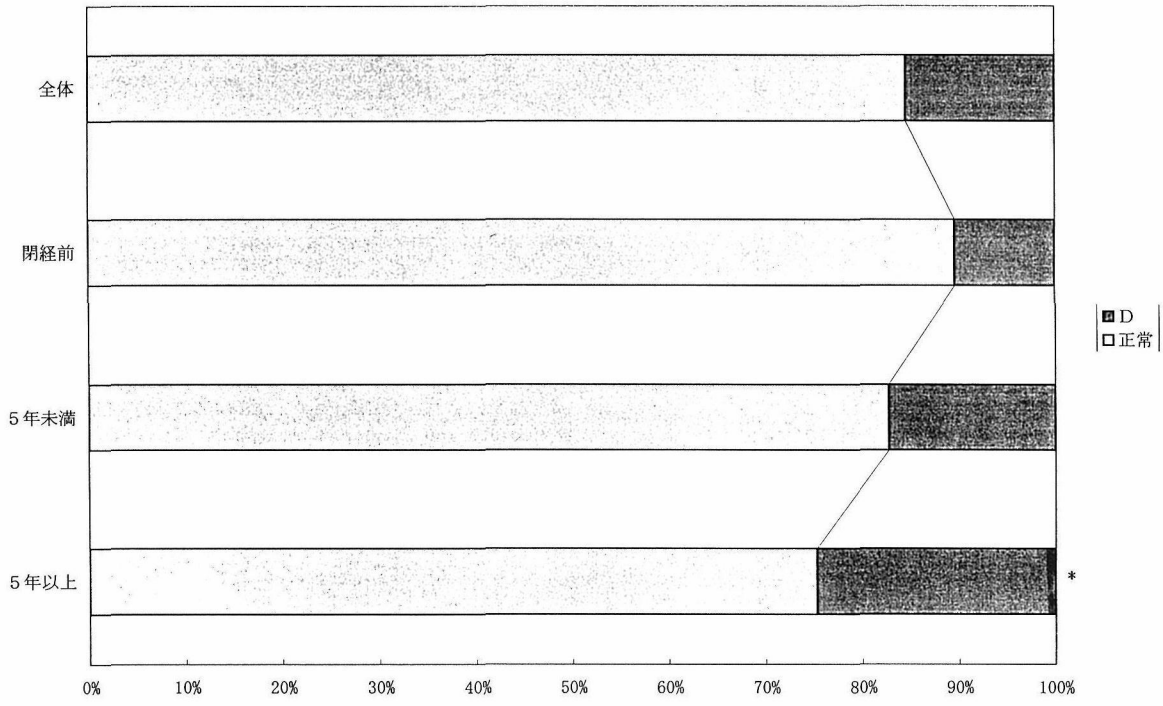


図２１　ＳＤＳの得点よりみた閉経時期別判定割合　48点以上　(＊ p<0.05)

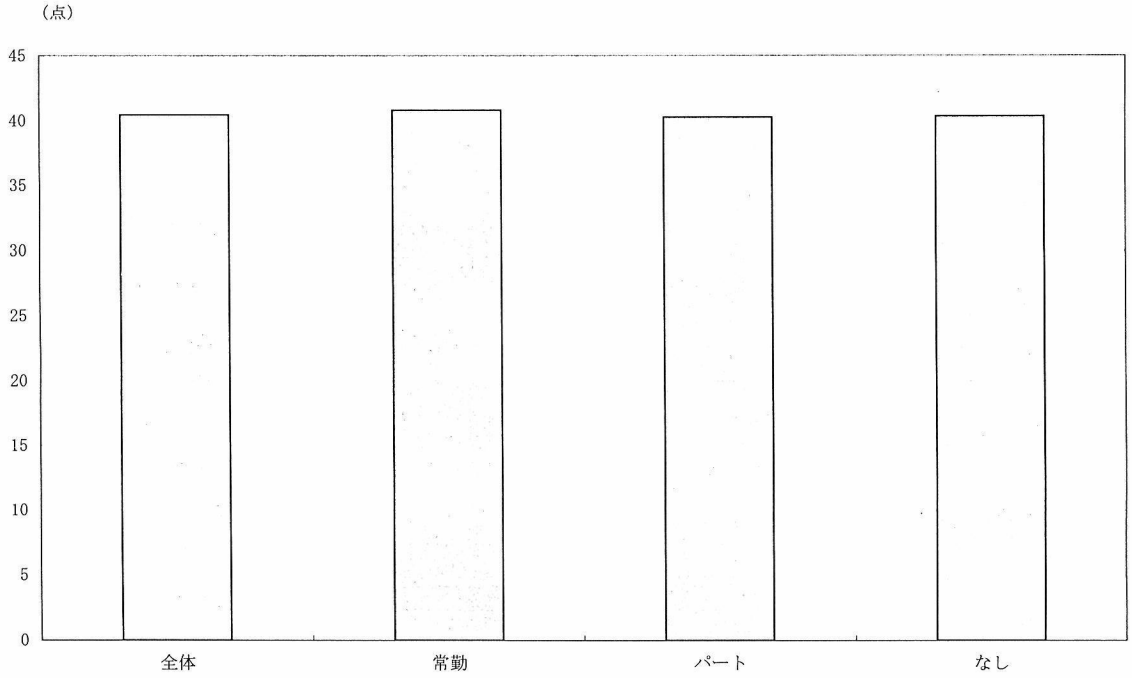


図２２　ＳＤＳ仕事別得点平均比較

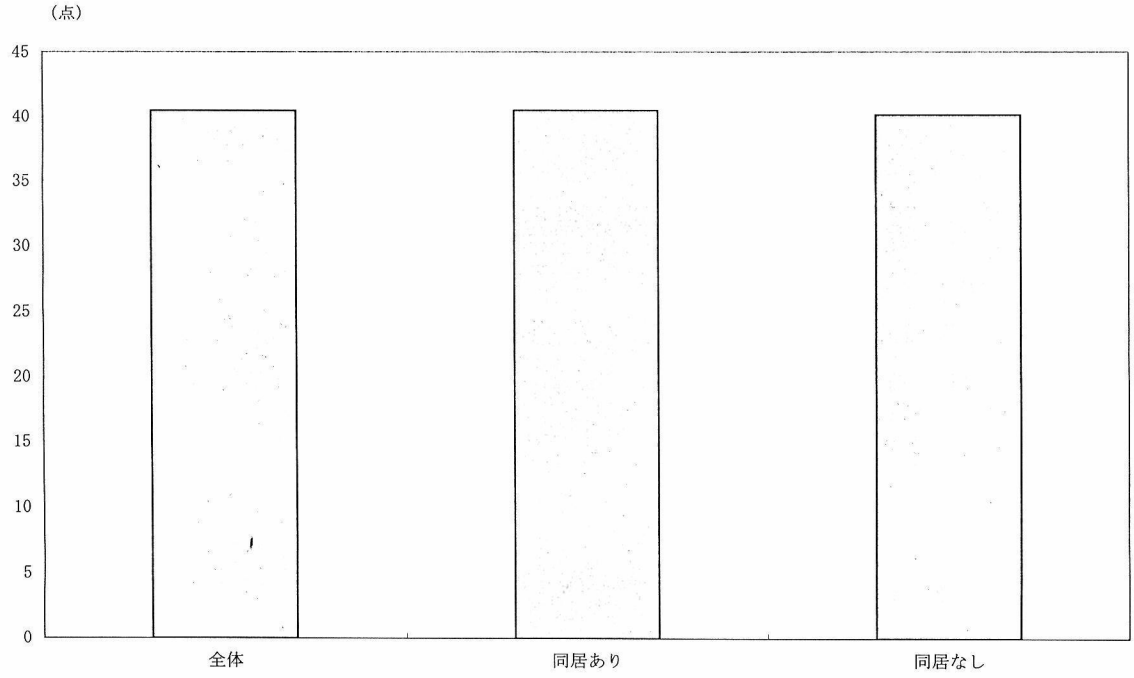


図２３　ＳＤＳ親の同居別得点平均比較

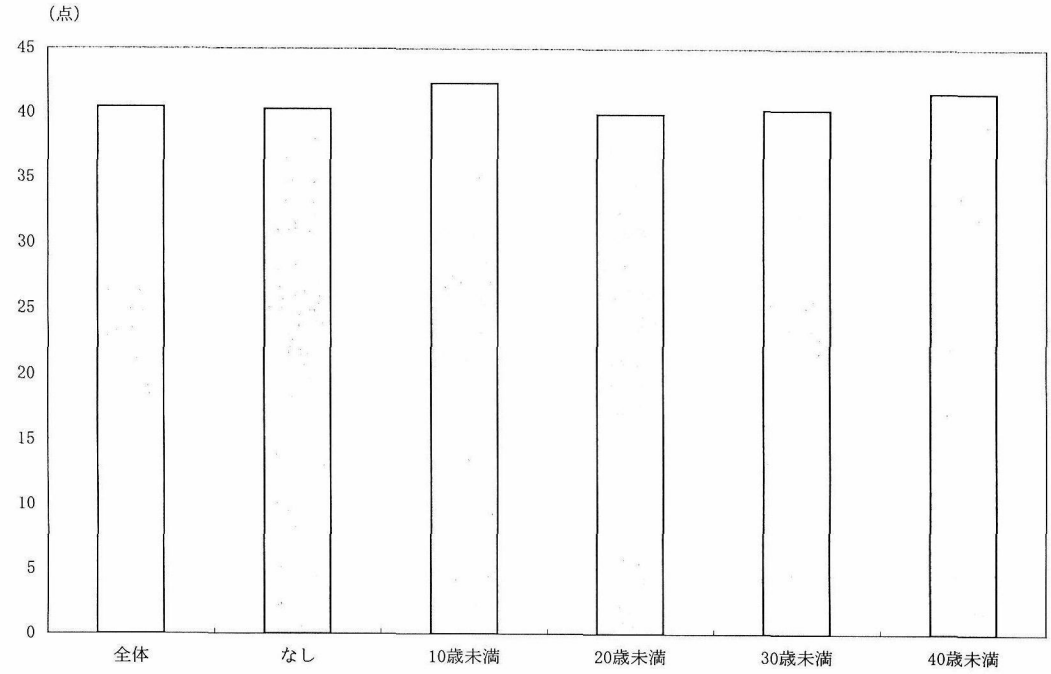


図２４　ＳＤＳ同居の末子の年齢別得点平均比較

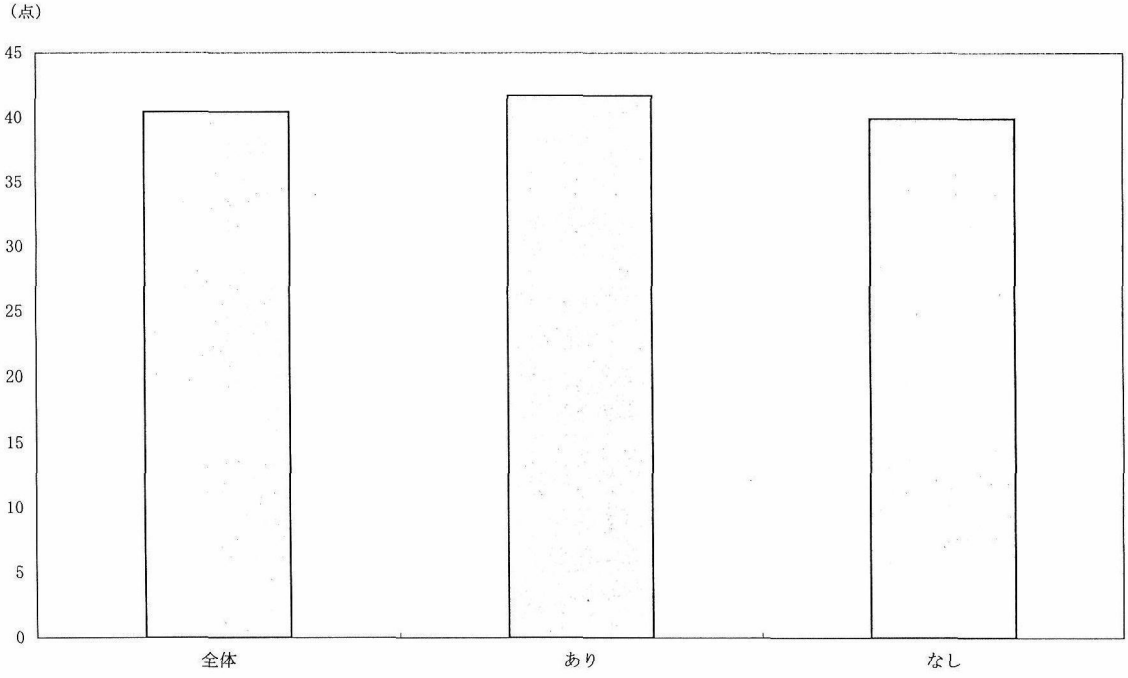


図２５　ＳＤＳ通院（病気）別得点平均比較

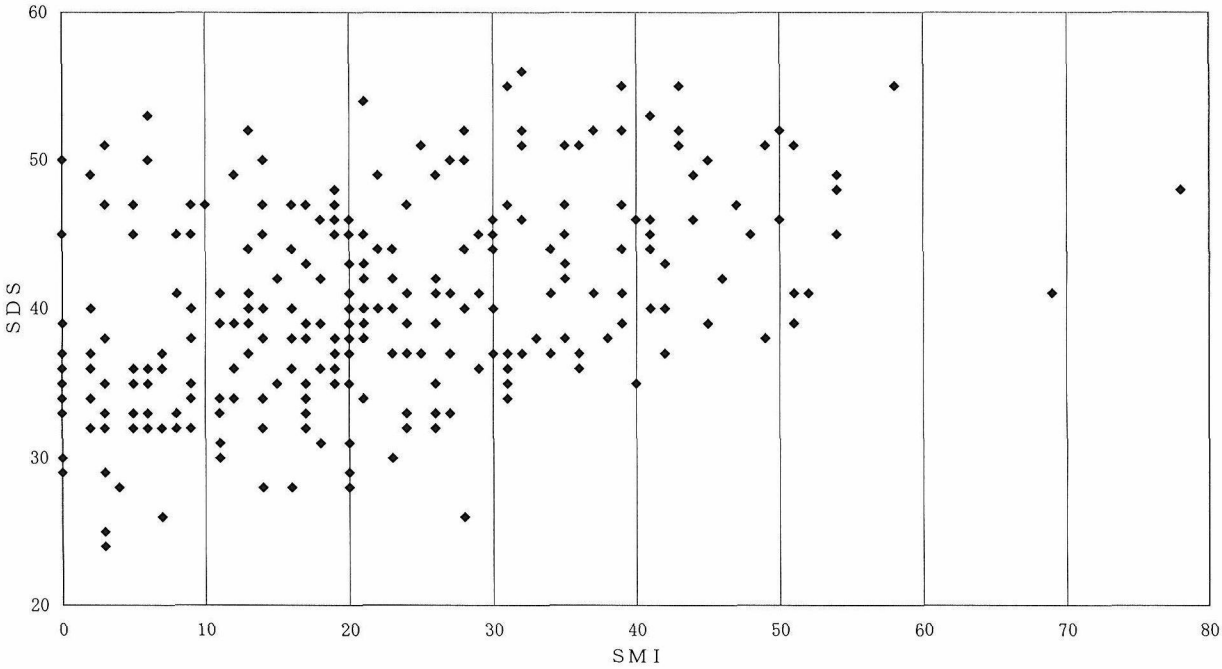


図２６　ＳＭＩとＳＤＳの相関図

Ⅷ．考察

１　既存尺度の有用性と課題

１）　慶応式調査表に関する分析

信頼性は内的整合性はクロンバックのα係数が0.92と非常に高いことや項目間相関係数から検証され、また安定性に関しては同一対象で一定期間を置いて調査（再テスト法）は行なっていないが、ほぼ同一集団とみなされる３町村で同一の結果が得られていることからも検証されたとしてよいのではないかと考える。

妥当性は構成概念妥当性を因子分析法を用いて行い、第１因子が「気分の変化」であり、以下第６因子まで取り出されたが、第２因子～第６因子まで殆ど寄与率は同じであり「ボディイメージの変化」「性的身体感覚の変化」「腰背痛」「睡眠パターンの変化」「体温知覚の変化（ホットフラッシュ）」があげられ、従来から更年期女性の抱える問題として指摘されてきた事項にくくられることからも測定しようとする概念は妥当であると考える。一方、残余因子も多く、累積寄与率からみても更に多次元な因子をもつ存在であることがわかる。

また、併存概念妥当性をみるために更年期の指標として最近用いられているＳＭＩとの相関をみたところ、確かに従来からいわれているところの更年期障害に該当する項目との相関は高いことからも更年期障害は含んでいることが言えるが他の要因の大きさが考えられる。

内容的には20症状群40症状をみると（以下本調査イタリック体）、野澤・太田等[3)7)]は日本人女性の更年期障害の特徴として、重度・中等度で肩こり35.4%*（32.3%）*、疲れやすい32.9%*（32.6%）*、汗をかきやすい27.8%*（36.6%）*、顔が熱くなる、神経質である、夜なかなか寝つかれないが各々25.5%*（6.4%、23.9%、10.6%）*が高く、少ないものでは手足の感覚がにぶる4.4%*（1.8%）*、はきけがある、めまいがある各々 1.9%*（2.0%、3.0%）*皮膚をアリがはうような感じがある0%*（0.5%）*であったという。これらの調査は病院に来院した患者であるが、本調査においてもほぼ同様の結果を得ている。ただ、汗をかきやすいと顔が熱くなるは同一の血管運動神経障害様症状であるのに、極端な差が本調査ででていることは、本調査が真夏の時期であったことも影響して

いると考えられる。

興味深いのは、野澤・太田等も必要性を感じ、この調査に13症状群26症状以下を入れたに違いないが、そのデータを彼等は未発表である。しかし、本調査において、物忘れする(16.8%)、覚えられない(18.7%)、皮膚のしわが気になる(18.6%)、髪のボリュームが少なくなる(22.5%)など認知機能障害様症状やボディーイメージの症状がかなりあるということであり、これが中年女性の健康問題を現し、単に更年期障害ではないことを示している。また、軽度までいれると相当の健康問題を指摘する調査表であることがわかる。

2） ＳＭＩに関する分析

信頼性は内的整合性はクロンバックのα係数が0.77であり、項目間相関係数もあまり高いとはいえないため、若干見解の相違があろうが中年のある側面ははかれるが必ずしも一般女性の総体を測定しているものではない。

妥当性は構成概念妥当性を因子分析法を用いて行ったところ、第１因子「易疲感」、第２因子「ホットフラッシュ」、第３因子「神経質・憂うつ」がほぼ同程度の寄与率であり、本来、小山はestrogen低下を反映させてつくったものであるとされているが、配点の低い項目が同程度に並んでいることは必ずしもestrogenの低下に起因しているとはいいがたい。

内容的にみると、全体の平均得点は21.59点であるが、26～50点の要注意群が106名（30.3%）、51点以上の要受診群が18名（0.5%）いることになり、年齢的にestrogenの影響とみるならば、閉経後５年未満に高いはずであり、確かに要受診群は6名（7.8%）と増加するが、閉経後５年以上群にも要受診群は7名（8.8%）となり単純に考えられない。小山[47]もこの点に関しては高得点になる程、心身症、精神的要因をもっているとしており、要注意群が55才以上に有意に増加していることからも単純にestrogenの影響と考えない方がよい。
しかし、逆に中年期が「易疲感」や「神経質・憂うつ」を健康問題として身体化表出としてとらえられるならば簡略で項目数も少なく、スクリーニングに適しているとも考えられる。

3） ＳＤＳに関する分析

信頼性は内的整合性はクロンバックのα係数で0.78であったが、項目間相関は弱く、多次元の尺度であることがわかった。

妥当性は構成概念妥当性を因子分析法を用いて行い、第１因子が「現状・将来への不安感」、第２因子が「神経質・憂うつ」で、各々の寄与率が17%、13%であり、第３因子「他者との関係」7%、第４因子「生活の不安定感」9%、第５因子「身体的不調」7%であったことから抑うつの程度を測るのは集約された尺度であるが、残余因子にあるように、身体的な側面との関連は見いだしにくい。

また、ＳＭＩとの関連性をみたところ、相関係数が0.446であり相関がみられることは、むしろＳＭＩが「易疲感」「神経質・憂うつ」といった側面を測定している可能性が高いことを示す結果となる。

内容的には、ＳＤＳの得点平均は、神田等[44]の調査によると38.8点であり、福田等[45]は35.74点であるといい、本調査の平均40.47点はやや高い結果であった。さらに、抑うつ状態の割合は図２１のようにカットオフ点を48点にして 神田等[44][46]は成人女子13.0%、老人16.5%であったのに比し、本調査の全体平均15.4%、閉経前11.6%、閉経後５年未満17.2%、閉経後５年以上22.1%は高く、一般に男子より女子に、成人より老人に高い傾向があるので、妥当な数値であるのか更に検討を要する。しかし、カットオフ点40点（境界群）がうつ状態予備群と考えれば図２０に示す55.2%は格段に高い。この数値は、土肥等[32]の脳卒中後の患者の抑うつを測定し、抑うつ状態の割合が46.4%とされた結果よりも高い。

4） 尺度有効性・開発にあたっての課題

既存の尺度の信頼性・妥当性の検討をした結果、中年女性の健康問題は多次元的であることがわかり、その意味では慶応式調査表が最も信頼性が高いことがわかった。

また、ＳＭＩは簡略で測定しやすく必ずしもestrogenと対応していないのではないかと考えるので、スクリーニングには適しているのかもしれないが総合的な健康問題は把握できない。

ＳＤＳは、抑うつ状態のスクリーニングで広く活用され先の２つの尺度より信頼性・妥当性の検証された調査であるが、今回の結果あまりにも抑うつ状態の割合が高いので、調査方法に問題があるのか、あるいはＳＤＳにもみられたように抑うつ状態は意外に高いことも考えられる。

いずれにしても、中年女性の健康問題は多次元的であり、調査用紙で測定するとしたら項目数は多くても止むを得ないと考える。とくに看護として、健康問題を抽出していくならば慶応式調査表に示されていた医学で取り扱わない健康問題をもみていく必要や、潜在的な問題を取り扱っていくことが大切であろう。

一般中年女性の健康調査用紙（尺度）を洗練させていく作業を進めるとしたら、まず抑うつ状態の再検討（再

調査）を行い、続いて慶応式調査表の40症状全体から軽度のものをも含んで項目としての取捨選択が必要である。また、この調査表を用いるという考えの前提には、健康問題は心身問題であり、必ず身体化するという前提のもとでであり、岡本等[18]のいう中年期のアイデンティテティー再体制化の第１段階すなわち身体感覚の変化の認識にともなう危機期の気づきであり、その後本人の再体制化は当然調査用紙でなされることではなく、各個人への介入が必要なことはいうまでもない。

また、地域に暮らす一般女性がこれだけ多くの健康問題をかかえながら暮らしていることを地域の保健を担う看護職は忘れてはならないし、むしろ高齢社会に突入している我が国ではこの年代の女性の健康問題を地域で把握するための一つの道具としての活用のためにも開発されることが望まれる。

２　中年女性の健康問題

１）　年齢からとらえた健康問題

中年を40才から59才でとらえ、５才毎に健康問題をとらえた結果、45才未満は膣症状や腰や背中の痛みなどの変化が多く、50才前後になると更年期障害的な顔が熱くなる、汗をかきやすいが急増し、覚えられないなど認知機能障害の出現があり、55才から寝つかれないなどの睡眠障害や憂うつが強くなっていく傾向にある。

このことは、中年と一括りにすることが無理で、現在の我が国の状況と合致していると思われる。つまり、後に同居家族との関係ででてくるが45才未満は子育ての現役であり10才未満の末子を抱えている人も多く、性的にもまだ成熟期であるが、自らは加齢による身体感覚的な変化を感じているところから出現している問題認識であると考える。晩婚化、出産年齢の高齢化は中年期に影響を及ぼしていることが伺える。50才前後は、閉経の時期と一致しており、まさに閉経時期の認識や具体的な対処が必要な時期であろう。55才以上が本当の意味で神経質・憂うつのチャンスが増加していくのか、50才からの身体的不調に加えて一気に心理・社会的要因が増すのか症状が増す。我が国の夫婦の年齢差などを考慮すると夫の定年の問題、勿論自らの定年の問題、親の死亡や子離れなどは55才あたりにくるのであろうと推測される。

２）　閉経との関係からとらえた健康問題

閉経を契機に変化のみられる症状は、顔が熱くなる、汗をかきやすいといった血管運動障害様症状がありまさに更年期障害をさしている。更年期障害でも遅発性の障害とされている性交痛や膣の乾いた感じという症状は閉経後５年以上にでてくることも理論どおりである。ただし、膣症状に関しては、閉経前の群にも出現するが意味あいが若干違うことも考えられる。つまり、閉経との関連のみで健康問題を説明するには限界があることがよくわかる。

３）　仕事からとらえた健康問題

仕事の有無から症状をみると、主婦にその割合が高かったことは、大川等[48]は無職の者の方が更年期症状の強かったとの報告と一致し、その分析は深沢[42]の「有職婦人よりも専業主婦の方が中年の危機が大きい」ということが身体的にも出現し、諸家のいう母親役割が中心の家庭内の役割が持続できなくなった時にとまどいを感じるという分析どおりではないかと考える。

４）　同居家族からとらえた健康問題

同居率は、平成５年の我が国の３世代世帯12.8％、その他（親と夫婦のみなど）5.6％の両方をあわせても18.4％であり、本調査の41.3％は同居率が高く、圧倒的に女性の老親が多い。家庭内介護を行っている人は全体で20名と少なかったので、健康問題として差がでる部分がなかった。このことは、同居していることによって健康問題に差がでないことや、いやむしろ同居によって数値的には若干低いといった結果は、今回の調査地域では、老人と健康に暮らせている状態をあらわしているともいえる。しかし、同居の末子の年代で症状をみると当然先に述べた自分自身の年齢で現れてくる症状とも類似してくるが、10才未満の末子を持つ人に腰が痛い、背中が痛い、神経質であるなどがあり、ＳＭＩやＳＤＳも10％水準ではあったが高い傾向がみられたことは、今後まだ晩婚化や高齢出産がすすむ時代であり、この女性の中年期のサポートについて考えなければならない視点を呈している。また、末子が30才以上の人は、概ね55才以上になっており閉経後５年以上経っている人の特徴を備えている。

５）　通院（病気）の有無からとらえた健康問題

病気を持っている場合、いづれの調査用紙を用いても症状が強く、とくに神経質・憂うつや睡眠障害などの問題が明らかに存在する。この結果は大川等[46]の調査とも一致しており、病気をもつことは明らかに他の健康問題に影響を及ぼす。

３　看護実践への示唆（中年女性の健康管理への示唆）

１）　潜在的な健康問題の多彩さへの気づき

従来よりの更年期障害以外にも、中年女性には健康問題はあると漠然と思いながらも未整理のままに今日まで

来て、看護者による研究は数少なかった。例えば、ボディーイメージの変化について言葉として用いるもののこのように多くの中年女性の問題として明らかにされてこなかった。

高齢出産が多くなり、育児の負担感は乳幼児の子育て期に限定して考えられてきたが、身体的加齢が表在化する中年期の問題として明らかになった。

estrogenの低下・欠乏は事実身体化症状を起こすが、引き続き神経質・抑うつ症状を起こさせる何かの要因で身体化を促進し、結果的に55才以上の人々に健康問題が多い。

2） 健康教育への示唆

以上の角度からとらえてみると、共通してみえるものとしての特徴がある。つまり中年として、一括りにしても40代前半の人々と50代の人々では問題が異なること、専業主婦と常勤者ではやはり異なることがわかった。この結果は、健康教育場面で教育プログラムに反映させることができる。

尺度開発のところでも述べたように、個人への介入は調査表ではなされないために、実際は事例毎の問題になることは改めて述べるまでもない。

4 本研究の限界

本調査対象は山梨県北巨摩郡の3町村の中年女性を対象としたものであり、文化的背景、健康認識、家族形態、職業などの地域性があると思われ、必ずしもすべての中年女性一般化したものでもない。従って、今後、都市部の中年女性を対象に追試を行い検討をする必要がある。また、3つの尺度から健康問題を抽出したためこの範囲での健康問題を扱っている。

Ⅸ．結論

1 中年女性の健康問題を査定するために既存尺度の信頼性・妥当性の検討をした結果、次のことが明らかになった。

1） 慶応式調査表の信頼性は内的整合性はクロンバックのα係数で0.92であり、妥当性は構成概念妥当性を因子分析法により検討した結果、かなり有用な指標であることがわかった。

2） ＳＭＩの信頼性は同様にクロンバックのα係数0.77であり、妥当性は構成概念妥当性を因子分析法で行ったところ、必ずしもestrogenの低下を反映させる結果にならなかったが、そのために非常に限定された調査には用いやすいことが分かった。

3） ＳＤＳの信頼性は同様にクロンバックのα係数0.78であり、妥当性は構成概念妥当性を因子分析法で行ったところ、身体的側面との関連がはっきりしないのでＳＤＳ単独での使用では問題はみえないことが分かった。

4） 1～3の結果から、中年女性の健康問題査定の調査用紙（尺度）は、多次元性のものであることが予測され、項目数も多くなってもやむを得ない。

2 信頼性・妥当性のあることを前提に健康問題を分析した結果、以下の健康問題が明らかになった。

1） 地域に暮らす一般中年女性は、潜在的な健康問題を多彩にもっており、更年期障害症状の他にも、ボディイメージの変化や認知機能障害様症状などはかなりの高率であった。

2） 中年期の健康問題も年齢によりかなりの相違があった。すなわち、45才未満は腰背痛、膣症状など、50才周辺はまさに更年期障害様症状である顔が熱くなる、汗をかきやすい、神経質であるなどであり、55才から睡眠障害、憂うつなどが増加する。

3） 10才未満の子育てをする中年女性に腰背痛、神経質、憂うつなどがみられる。

4） 親との同居や介護では今回の調査では差がなかった。

5） 仕事別では主婦、常勤、パートの順に健康問題をもっていた。

6） 通院（病気）の有無は他の健康問題に影響を及ぼす。

3 看護実践への示唆

潜在的な健康問題が存在することが明らかになり、なおかつ年齢や子育て、仕事との関係や病気の有無などがあきらかになり、健康教育への取り組みの必要性と内容にいかす事ができると考える。

資料１

中高年女性健康調査表

Ⅰ．次の質問に（　）内に数字をいれるか、あてはまる項目に○をつけてください。

1．あなたの年令は？　　満（　　）才

2．あなたの身長・体重は？　（　　）ｃｍ　（　　）Ｋｇ

3．生理（月経）は有りますか。　あり　なし

(1)ありと答えた方のみお答えください。生理不順は有りますか。　あり　なし

生理不順はいつ頃からですか？　（　　）年（　　）カ月前から

(2)なしと答えた方のみお答えください。最後の生理はいつでしたか（　）才

4．現在、運動を行なっていますか。　いる（具体的に　　）　いない

5．牛乳を飲む習慣は有りますか。　あり　なし

6・現在仕事をもっていますか。　常勤　パート　なし

7．現在、医者にかかっている病気がありますか。　ある（　　）　ない

8．同居のご家族は何人ですか？　（　　）人
同居の方の、全員の年令と関係をお書き下さい。（例:夫55,義母88,実母70）

同居の家族の中に、介護が必要な方がいらしゃいましたら、○を付けてください。

Ⅱ．以下の質問事項に、現在当てはまる項目に、○印をつけてください。

質問項目	程度			
	非常にある	あ　る	たまにある	な　い
1　顔が熱くなる				
2　汗をかきやすい				
3　腰や手足が冷える				
4　息切れがする				
5　腰が痛い				
6　背中が痛い				
7　肩こりがある				
8　手足の節々の痛みがある				
9　疲れやすい				
10　興奮しやすい				
11　イライラする				
12　神経質である				
13　不安感がある				
14　頭が痛い				
15　つまらないことにくよくよする				
16　憂うつになることが多い				
17　意欲がわかない				
18　夜なかなか寝つかれない				
19　夜眠っても目を覚ましやすい				
20　手足がしびれる				
21　手足の感覚がにぶい				
22　心臓のどうきがある				
23　めまいがある				
24　はきけがある				

— 1 —

質問項目	非常にある	あ　る	たまにある	な　い
25　皮膚をアリがはうような感じがする				
26　もの忘れする				
27　覚えられない				
28　皮膚のしわが気になる				
29　髪のボリュームが少なくなる				
30　お小水が近い				
31　お小水が間にあわない				
32　お小水が漏れる				
33　おりもの（帯下）に色がつく				
34　膣に乾いた感じがある				
35　膣にかゆみがある				
36　性交時痛みがある				
37　のどがつかえるような感じがする				
38　眼の痛みがある				
39　眼の乾いた感じがある				
40　お腹のはった感じがある				
41　今の生活に満足している				
42　ささいなことで泣いたり、泣きたくなる				
43　最近、やせてきた				
44　便秘している				
45　おちつかず、じっとしていられない				
46　自分が死んだ方が他の人は楽に暮らせると思う				
47　朝方一番気分がいい				
48　食欲はふつうにある				
49　異性の友人と付合っている（茶飲み友達）				
50　気持ちはいつもさっぱりしている				
51　いつもと変わりなく仕事（家事が）できる				
52　将来に希望がある				
53　迷わずに物事を決める事ができる				
54　役立つ人間だと思う				
55　今の生活は充実していると思う				

Ⅲ．更年期世代を健康に過ごすために、生活上のご苦労や、また工夫していらしゃること等、会ってお話してもよいとおっしゃる方は、下記にご住所・氏名・電話番号をお書き下さい。　後日、連絡をしたいと思います。

ご住所　　お名前

電話番号

尚、面会を希望しない方は本調査は無記名ですので、お名前は結構です。
ご回答ありがとうございました。

— 2 —

資料2　調査結果一覧

					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	S合計	Z合計
全体		人数	421	回答数	379	391	378	388	405	398	406	400	405	393	403	397	393	401	405	399	394	404	403	404	398	401	402	403	401	405	395	398	396	402	400	401	397	399	399	384	399	397	398	393	350	299
		平均年齢	50.27	平均	1.47	2.08	1.65	1.34	1.96	1.48	2.17	1.63	2.11	1.46	1.63	1.79	1.47	1.61	1.72	1.46	1.52	1.45	1.47	1.41	1.12	1.35	1.36	1.13	1.09	2.02	1.83	1.60	1.58	1.32	1.04	1.17	1.21	1.13	1.19	1.24	1.18	1.30	1.21	1.36	21.59	40.47
		標準偏差	5.92	標準偏差	0.72	1.02	0.87	0.61	0.81	0.70	0.89	0.80	0.88	0.65	0.72	0.90	0.69	0.73	0.81	0.67	0.66	0.72	0.74	0.69	0.40	0.56	0.55	0.40	0.30	0.64	0.79	0.86	0.93	0.63	0.24	0.42	0.45	0.43	0.46	0.74	0.66	0.54	0.49	0.64	14.99	6.77
地区別	武川	人数	167	回答数	145	152	145	152	162	157	160	160	161	157	161	157	156	160	161	159	157	161	160	161	159	161	161	160	159	159	155	157	157	157	159	157	156	157	158	149	156	155	156	152	135	116
		平均年齢	49.35	平均	1.48	2.22	1.52	1.36	2.00	1.43	2.14	1.66	2.02	1.38	1.57	1.69	1.44	1.63	1.70	1.47	1.55	1.43	1.41	1.33	1.13	1.33	1.39	1.16	1.10	1.98	1.79	1.54	1.55	1.29	1.04	1.17	1.23	1.08	1.18	1.23	1.23	1.23	1.18	1.38	20.39	40.99
		標準偏差	6.00	標準偏差	0.71	1.02	0.76	0.67	0.83	0.66	0.88	0.83	0.87	0.56	0.67	0.84	0.64	0.72	0.84	0.69	0.71	0.71	0.76	0.61	0.42	0.55	0.60	0.46	0.34	0.63	0.73	0.80	0.91	0.57	0.27	0.42	0.47	0.31	0.42	0.93	0.90	0.46	0.43	0.63	14.37	6.70
	白州	人数	86	人数	78	79	80	79	83	81	84	79	81	76	79	80	80	79	80	78	77	79	80	79	77	78	79	79	79	82	79	79	78	80	79	80	78	79	78	78	79	78	79	80	72	55
		平均年齢	51.00	平均	1.45	2.03	1.66	1.37	1.83	1.43	2.24	1.61	2.01	1.38	1.59	1.76	1.48	1.54	1.68	1.32	1.36	1.42	1.43	1.48	1.17	1.40	1.37	1.10	1.05	1.93	1.75	1.56	1.60	1.26	1.04	1.19	1.19	1.24	1.22	1.24	1.19	1.26	1.18	1.28	20.66	39.78
		標準偏差	5.76	標準偏差	0.77	1.09	0.87	0.64	0.81	0.61	0.95	0.81	0.99	0.65	0.73	0.90	0.71	0.71	0.81	0.61	0.61	0.63	0.67	0.80	0.52	0.63	0.54	0.30	0.22	0.68	0.87	0.90	0.98	0.61	0.25	0.48	0.40	0.62	0.55	0.61	0.48	0.52	0.47	0.55	17.09	7.24
	長坂	人数	168	回答数	156	160	153	157	160	160	162	161	163	160	163	160	157	162	164	162	160	164	163	165	163	162	162	164	163	164	161	162	161	165	162	164	163	163	163	157	164	164	163	161	143	128
		平均年齢	50.79	平均	1.47	1.96	1.78	1.31	1.98	1.54	2.18	1.60	2.24	1.58	1.71	1.91	1.50	1.62	1.76	1.53	1.55	1.49	1.54	1.45	1.09	1.34	1.32	1.13	1.10	2.09	1.89	1.67	1.60	1.38	1.04	1.16	1.21	1.13	1.18	1.25	1.14	1.45	1.26	1.37	23.19	40.29
		標準偏差	5.83	標準偏差	0.70	0.99	0.95	0.53	0.78	0.77	0.88	0.77	0.81	0.72	0.77	0.96	0.73	0.74	0.78	0.68	0.62	0.78	0.76	0.70	0.30	0.55	0.49	0.37	0.30	0.62	0.82	0.90	0.93	0.68	0.20	0.40	0.46	0.39	0.46	0.58	0.43	0.97	0.55	0.69	14.39	6.64
年齢別	45歳未満	人数	90	回答数	85	86	85	86	87	86	87	88	88	85	86	84	84	86	86	86	86	87	86	87	86	86	86	86	87	87	83	87	87	86	87	85	87	87	87	87	87	87	87	87	80	69
		平均年齢	41.92	平均	1.26	1.77	1.47	1.23	2.14	1.47	2.20	1.44	1.95	1.46	1.67	1.64	1.43	1.63	1.64	1.37	1.49	1.28	1.24	1.25	1.02	1.17	1.26	1.10	1.09	1.90	1.65	1.61	1.48	1.23	1.00	1.14	1.33	1.09	1.26	1.28	1.20	1.17	1.16	1.26	18.14	41.30
		標準偏差	1.37	標準偏差	0.54	1.00	0.65	0.45	0.84	0.70	0.91	0.74	0.80	0.65	0.74	0.85	0.68	0.69	0.82	0.61	0.61	0.56	0.53	0.53	0.15	0.38	0.46	0.34	0.29	0.61	0.69	0.77	0.85	0.55	0.00	0.41	0.54	0.29	0.49	1.14	1.10	0.40	0.50	0.52	12.47	6.14
	50歳未満	人数	99	回答数	89	90	87	91	96	93	95	91	94	91	93	95	92	94	96	93	91	95	96	94	94	95	94	94	94	96	92	93	92	94	94	94	92	93	93	92	93	92	92	90	81	68
		平均年齢	46.82	平均	1.34	1.87	1.69	1.41	1.94	1.45	2.08	1.54	2.11	1.35	1.61	1.61	1.27	1.64	1.65	1.45	1.56	1.32	1.34	1.36	1.14	1.41	1.44	1.21	1.10	1.96	1.68	1.60	1.51	1.32	1.06	1.26	1.22	1.09	1.20	1.13	1.14	1.30	1.21	1.52	19.31	39.40
		標準偏差	1.37	標準偏差	0.56	1.01	0.92	0.70	0.86	0.68	0.86	0.73	0.97	0.64	0.74	0.87	0.58	0.80	0.79	0.73	0.76	0.69	0.72	0.60	0.43	0.63	0.58	0.53	0.30	0.60	0.77	0.86	0.92	0.63	0.35	0.51	0.46	0.35	0.48	0.40	0.43	0.53	0.43	0.71	15.36	6.04
	55歳未満	人数	105	回答数	95	99	96	100	102	100	101	102	101	97	100	101	97	98	102	99	97	101	99	102	100	100	101	101	99	100	99	98	98	100	100	99	98	99	100	95	98	99	99	96	88	72
		平均年齢	52.33	平均	1.73	2.29	1.68	1.35	1.91	1.53	2.23	1.79	2.19	1.49	1.63	1.85	1.49	1.64	1.76	1.46	1.44	1.47	1.44	1.49	1.19	1.33	1.31	1.09	1.06	2.07	1.88	1.55	1.52	1.26	1.05	1.18	1.21	1.13	1.11	1.19	1.16	1.42	1.18	1.33	24.20	39.89
		標準偏差	1.31	標準偏差	0.86	1.00	0.88	0.58	0.80	0.73	0.94	0.89	0.89	0.69	0.76	0.91	0.63	0.76	0.73	0.66	0.58	0.72	0.66	0.83	0.53	0.51	0.50	0.29	0.24	0.64	0.84	0.86	0.88	0.54	0.26	0.44	0.44	0.47	0.42	0.53	0.51	1.13	0.46	0.61	16.64	6.83
	60歳未満	人数	127	回答数	110	116	110	111	120	119	123	119	122	120	124	117	120	123	121	121	120	121	122	121	118	120	121	122	121	122	121	120	119	122	119	123	120	120	119	110	121	119	120	120	101	90
		平均年齢	57.17	平均	1.53	2.28	1.75	1.37	1.88	1.47	2.19	1.69	2.16	1.51	1.62	1.99	1.63	1.54	1.79	1.54	1.56	1.68	1.74	1.49	1.12	1.43	1.41	1.13	1.11	2.11	2.01	1.63	1.75	1.43	1.04	1.11	1.13	1.20	1.19	1.35	1.22	1.37	1.28	1.33	23.88	41.10
		標準偏差	1.42	標準偏差	0.75	0.99	0.97	0.66	0.75	0.69	0.87	0.78	0.84	0.64	0.67	0.93	0.79	0.67	0.87	0.68	0.67	0.80	0.87	0.71	0.37	0.63	0.60	0.38	0.36	0.68	0.81	0.94	1.03	0.73	0.20	0.33	0.36	0.51	0.46	0.70	0.47	0.61	0.55	0.68	14.38	7.60
閉経	5年以上	人数	102	回答数	85	91	86	88	96	95	98	97	97	96	100	96	92	97	97	97	96	97	98	97	94	96	96	98	94	96	95	94	94	96	95	97	95	95	93	86	95	94	94	95	80	77
		平均年齢	56.35	平均	1.58	2.36	1.84	1.43	1.93	1.59	2.29	1.80	2.26	1.55	1.63	2.04	1.62	1.65	1.84	1.63	1.59	1.68	1.74	1.48	1.10	1.50	1.42	1.14	1.06	2.08	1.94	1.70	1.61	1.46	1.04	1.12	1.12	1.22	1.16	1.44	1.22	1.41	1.27	1.38	25.83	41.30
		標準偏差	2.28	標準偏差	0.81	0.90	1.00	0.74	0.78	0.75	0.89	0.81	0.87	0.63	0.66	0.93	0.77	0.79	0.83	0.73	0.63	0.81	0.87	0.72	0.36	0.66	0.61	0.38	0.25	0.66	0.78	0.95	0.94	0.72	0.20	0.36	0.35	0.55	0.45	0.78	0.47	0.63	0.51	0.72	15.15	7.72
	5年未満	人数	92	回答数	85	88	85	86	90	87	89	88	90	85	87	88	88	88	90	87	85	89	88	90	88	88	89	89	89	90	88	87	89	89	88	88	88	88	89	85	88	87	88	84	77	58
		平均年齢	52.27	平均	1.74	2.23	1.58	1.30	1.99	1.45	2.15	1.70	2.09	1.52	1.67	1.78	1.50	1.53	1.74	1.46	1.54	1.51	1.47	1.49	1.23	1.28	1.31	1.10	1.12	2.08	2.03	1.61	1.69	1.21	1.05	1.18	1.18	1.15	1.16	1.18	1.19	1.40	1.22	1.36	23.09	40.47
		標準偏差	3.91	標準偏差	0.86	1.07	0.85	0.51	0.80	0.66	0.91	0.78	0.87	0.78	0.86	1.00	0.68	0.69	0.84	0.71	0.72	0.77	0.69	0.80	0.54	0.50	0.49	0.37	0.36	0.66	0.84	0.89	1.01	0.46	0.26	0.44	0.39	0.49	0.45	0.44	0.54	1.18	0.53	0.61	17.70	7.24
	閉経前	人数	227	回答数	209	212	207	214	219	216	219	215	218	212	216	213	213	216	218	215	213	218	217	217	216	217	217	216	218	219	212	217	213	217	217	216	214	216	217	213	216	216	216	214	193	164
		平均年齢	46.72	平均	1.32	1.89	1.61	1.32	1.95	1.44	2.14	1.52	2.05	1.39	1.62	1.68	1.39	1.62	1.66	1.39	1.47	1.33	1.34	1.34	1.09	1.30	1.35	1.14	1.09	1.96	1.69	1.55	1.52	1.30	1.04	1.18	1.27	1.09	1.22	1.19	1.16	1.25	1.19	1.35	19.24	40.08
		標準偏差	5.07	標準偏差	0.56	1.02	0.82	0.58	0.83	0.69	0.89	0.79	0.88	0.60	0.69	0.83	0.65	0.71	0.79	0.62	0.65	0.63	0.67	0.62	0.34	0.53	0.54	0.41	0.30	0.62	0.76	0.81	0.89	0.63	0.25	0.44	0.50	0.31	0.48	0.80	0.77	0.50	0.47	0.62	13.27	6.09
仕事別	常勤	人数	172	回答数	155	158	155	158	167	162	163	165	165	160	165	164	162	166	168	164	161	166	166	165	164	165	165	164	163	166	158	160	161	163	163	164	160	161	161	156	162	161	162	160	142	114
		平均年齢	50.52	平均	1.40	2.08	1.61	1.36	1.93	1.54	2.25	1.65	2.06	1.46	1.65	1.87	1.49	1.63	1.80	1.49	1.41	1.45	1.49	1.39	1.12	1.38	1.33	1.11	1.06	1.98	1.77	1.63	1.52	1.34	1.03	1.15	1.22	1.12	1.19	1.20	1.13	1.32	1.25	1.33	21.46	40.82
		標準偏差	5.84	標準偏差	0.69	0.99	0.85	0.63	0.80	0.75	0.92	0.82	0.83	0.67	0.71	0.93	0.70	0.77	0.83	0.68	0.56	0.76	0.81	0.69	0.41	0.61	0.55	0.31	0.23	0.60	0.79	0.86	0.87	0.62	0.21	0.39	0.44	0.36	0.45	0.50	0.37	0.56	0.51	0.58	15.01	7.13
	パート	人数	123	回答数	113	115	111	115	120	121	122	118	119	116	118	117	113	117	117	115	117	119	118	120	117	119	118	120	116	119	116	116	114	118	116	116	116	116	116	112	116	116	116	114	104	94
		平均年齢	48.63	平均	1.42	1.91	1.74	1.29	1.97	1.47	2.18	1.70	2.17	1.50	1.63	1.68	1.39	1.58	1.65	1.42	1.58	1.35	1.33	1.45	1.14	1.25	1.36	1.18	1.07	2.02	1.86	1.61	1.58	1.31	1.06	1.17	1.23	1.10	1.14	1.30	1.19	1.27	1.19	1.34	20.66	40.27
		標準偏差	5.52	標準偏差	0.72	0.99	0.95	0.59	0.78	0.70	0.90	0.86	0.87	0.70	0.78	0.85	0.65	0.70	0.77	0.59	0.65	0.66	0.63	0.74	0.43	0.49	0.52	0.48	0.25	0.64	0.82	0.89	0.99	0.62	0.33	0.48	0.46	0.38	0.37	1.07	0.99	0.50	0.53	0.61	14.21	5.96
	なし	人数	113	回答数	102	109	103	106	106	103	109	105	109	106	109	105	107	107	109	109	106	108	108	108	106	106	108	108	111	109	110	111	110	110	110	110	110	111	111	106	110	109	109	108	95	83
		平均年齢	51.69	平均	1.64	2.21	1.60	1.39	2.00	1.42	2.07	1.54	2.15	1.44	1.65	1.83	1.54	1.60	1.68	1.51	1.64	1.59	1.61	1.37	1.11	1.41	1.39	1.14	1.15	2.06	1.88	1.59	1.67	1.34	1.03	1.18	1.20	1.20	1.24	1.25	1.27	1.43	1.21	1.39	22.91	40.33
		標準偏差	6.27	標準偏差	0.74	1.09	0.80	0.61	0.88	0.63	0.85	0.72	0.96	0.59	0.70	0.92	0.74	0.71	0.84	0.77	0.78	0.74	0.75	0.64	0.37	0.57	0.56	0.42	0.41	0.70	0.76	0.87	0.97	0.67	0.16	0.41	0.47	0.55	0.56	0.61	0.59	1.09	0.45	0.67	16.31	7.29
通院	あり	人数	103	回答数	87	92	86	92	99	97	99	96	98	90	97	96	93	96	98	96	93	97	96	97	95	96	95	96	93	97	92	93	93	95	94	95	92	94	92	88	93	92	93	94	77	67
		平均年齢	52.83	平均	1.61	2.24	1.65	1.48	2.04	1.63	2.27	1.77	2.40	1.58	1.70	2.20	1.74	1.73	2.02	1.68	1.61	1.69	1.78	1.52	1.16	1.49	1.47	1.19	1.06	2.06	1.85	1.75	1.65	1.44	1.01	1.19	1.16	1.24	1.27	1.42	1.19	1.35	1.30	1.45	25.82	41.73
		標準偏差	5.63	標準偏差	0.88	1.04	0.89	0.69	0.87	0.74	0.96	0.85	0.95	0.72	0.71	0.98	0.79	0.84	0.90	0.70	0.71	0.81	0.87	0.78	0.49	0.68	0.67	0.44	0.29	0.61	0.73	0.97	0.95	0.74	0.10	0.44	0.43	0.62	0.59	1.22	0.52	0.58	0.59	0.71	17.77	7.06
	なし	人数	303	回答数	278	286	279	283	292	287	294	290	294	289	292	287	287	291	294	289	288	293	293	294	290	291	293	293	294	294	290	292	291	293	292	292	291	291	293	282	292	291	291	285	260	222
		平均年齢	49.37	平均	1.42	1.99	1.65	1.30	1.93	1.44	2.13	1.59	2.00	1.42	1.60	1.64	1.39	1.57	1.61	1.40	1.48	1.38	1.38	1.37	1.11	1.31	1.32	1.11	1.10	2.01	1.83	1.56	1.56	1.28	1.05	1.16	1.24	1.10	1.17	1.18	1.19	1.29	1.19	1.31	20.05	39.95
		標準偏差	5.83	標準偏差	0.65	1.00	0.86	0.58	0.79	0.69	0.86	0.79	0.82	0.64	0.72	0.83	0.64	0.69	0.74	0.65	0.64	0.68	0.68	0.65	0.38	0.52	0.50	0.37	0.31	0.65	0.82	0.82	0.93	0.59	0.27	0.42	0.46	0.33	0.42	0.50	0.71	0.54	0.46	0.58	13.82	6.59
親と同居	同居あり	人数	174	回答数	158	160	156	161	165	163	166	164	164	161	166	162	162	163	167	163	159	165	166	166	164	164	165	165	163	166	161	163	161	163	162	164	161	162	162	158	160	162	161	160	147	132
		平均年齢	48.05	平均	1.46	2.06	1.63	1.35	1.99	1.47	2.16	1.63	2.15	1.47	1.67	1.69	1.40	1.66	1.65	1.41	1.46	1.35	1.42	1.46	1.12	1.34	1.32	1.13	1.11	2.01	1.83	1.57	1.54	1.29	1.05	1.19	1.24	1.16	1.20	1.25	1.11	1.27	1.14	1.25	21.68	40.49
		標準偏差	5.57	標準偏差	0.69	1.05	0.85	0.64	0.81	0.71	0.89	0.84	0.84	0.67	0.75	0.86	0.64	0.74	0.75	0.60	0.61	0.58	0.69	0.76	0.45	0.57	0.52	0.35	0.31	0.63	0.81	0.85	0.94	0.59	0.31	0.49	0.48	0.50	0.47	0.92	0.32	0.50	0.38	0.51	14.93	6.54
	同居なし	人数	246	回答数	220	230	221	226	239	235	239	235	240	231	236	235	230	237	237	235	234	238	236	237	233	236	236	237	237	238	233	234	234	238	237	236	235	236	236	225	238	234	236	232	202	167
		平均年齢	51.87	平均	1.48	2.10	1.67	1.34	1.93	1.49	2.18	1.63	2.09	1.45	1.61	1.86	1.52	1.57	1.77	1.50	1.56	1.53	1.50	1.38	1.12	1.36	1.39	1.14	1.08	2.03	1.83	1.62	1.61	1.34	1.03	1.15	1.20	1.11	1.19	1.24	1.23	1.37	1.26	1.44	21.60	40.45
		標準偏差	5.64	標準偏差	0.74	1.01	0.89	0.59	0.81	0.69	0.90	0.78	0.91	0.64	0.70	0.93	0.72	0.72	0.85	0.72	0.69	0.80	0.78	0.64	0.36	0.56	0.57	0.42	0.30	0.65	0.79	0.88	0.93	0.66	0.18	0.37	0.43	0.37	0.46	0.58	0.81	0.86	0.55	0.71	15.07	6.96
末子年齢	なし	人数	119	回答数	109	112	104	112	114	112	114	113	114	114	114	112	113	115	116	114	112	115	115	114	112	114	115	115	113	113	110	111	111	114	113	114	112	112	112	104	111	109	111	108	100	85
		平均年齢	53.13	平均	1.51	2.14	1.62	1.36	1.87	1.56	2.16	1.65	2.08	1.40	1.56	1.91	1.45	1.54	1.69	1.44	1.54	1.57	1.48	1.42	1.14	1.35	1.30	1.12	1.11	2.08	1.86	1.67	1.61	1.32	1.04	1.16	1.15	1.13	1.21	1.29	1.14	1.29	1.22	1.42	21.66	40.31
		標準偏差	5.06	標準偏差	0.75	0.99	0.87	0.61	0.76	0.78	0.84	0.79	0.85	0.63	0.68	0.91	0.65	0.70	0.82	0.58	0.66	0.76	0.71	0.69	0.46	0.58	0.52	0.38	0.34	0.67	0.80	0.92	0.91	0.60	0.25	0.41	0.41	0.36	0.51	0.66	0.37	0.51	0.46	0.67	14.61	7.03
	10歳未満	人数	35	回答数	33	35	34	34	35	35	34	34	35	35	35	35	34	35	35	34	34	35	35	35	35	35	35	35	35	35	32	35	35	34	35	33	34	35	35	35	35	35	35	34	32	31
		平均年齢	42.60	平均	1.42	2.00	1.74	1.29	2.17	1.54	2.32	1.44	2.17	1.60	2.06	1.77	1.44	1.60	1.77	1.56	1.53	1.17	1.11	1.14	1.06	1.23	1.31	1.11	1.14	2.00	1.75	1.77	1.63	1.26	1.03	1.30	1.29	1.09	1.14	1.17	1.43	1.20	1.26	1.32	22.88	42.32
		標準偏差	2.66	標準偏差	0.61	1.00	0.90	0.46	0.95	0.85	0.98	0.79	0.86	0.74	0.94	0.91	0.66	0.65	0.94	0.79	0.71	0.38	0.32	0.36	0.24	0.43	0.53	0.40	0.36	0.69	0.88	0.88	1.00	0.67	0.17	0.59	0.52	0.28	0.36	0.38	1.72	0.47	0.66	0.59	14.61	6.40
	20歳未満	人数	129	回答数	118	118	116	119	125	123	125	122	124	118	122	122	120	121	123	122	122	124	123	124	123	123	122	123	124	125	122	123	121	124	124	122	124	123	124	123	123	123	123	122	107	92
		平均年齢	45.60	平均	1.35	1.84	1.64	1.34	2.01	1.38	2.14	1.52	2.03	1.42	1.62	1.65	1.43	1.68	1.67	1.42	1.53	1.36	1.35	1.35	1.09	1.31	1.34	1.15	1.08	1.95	1.77	1.58	1.59	1.27	1.04	1.19	1.29	1.11	1.24	1.24	1.13	1.26	1.15	1.34	20.29	39.96
		標準偏差	3.93	標準偏差	0.67	1.06	0.86	0.59	0.82	0.57	0.89	0.75	0.90	0.62	0.71	0.88	0.69	0.74	0.78	0.68	0.69	0.69	0.68	0.68	0.38	0.53	0.49	0.42	0.27	0.59	0.79	0.82	0.98	0.57	0.30	0.45	0.51	0.43	0.52	1.00	0.40	0.49	0.38	0.65	15.63	5.75
	30歳未満	人数	120	回答数	105	110	108	108	115	112	116	114	115	109	115	112	109	113	114	112	109	113	113	114	111	112	113	113	112	116	114	112	112	113	111	115	110	112	111	109	113	114	113	112	97	76
		平均年齢	53.55	平均	1.60	2.26	1.67	1.35	1.96	1.48	2.22	1.76	2.17	1.49	1.57	1.81	1.51	1.63	1.78	1.49	1.46	1.47	1.60	1.54	1.14	1.40	1.43	1.14	1.07	2.02	1.81	1.49	1.51	1.34	1.04	1.12	1.20	1.16	1.14	1.21	1.17	1.46	1.27	1.36	22.39	40.29
		標準偏差	3.29	標準偏差	0.73	0.97	0.85	0.65	0.82	0.68	0.95	0.85	0.88	0.68	0.69	0.91	0.72	0.76	0.78	0.70	0.62	0.76	0.85	0.75	0.38	0.59	0.63	0.37	0.29	0.62	0.75	0.86	0.90	0.64	0.19	0.35	0.42	0.49	0.40	0.53	0.50	1.11	0.59	0.64	15.21	7.18
	40歳未満	人数	18	回答数	14	16	16	15	16	16	17	17	17	17	17	16	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	16	17	17	17	17	17	17	17	17	17	13	17	16	16	17	14	15
		平均年齢	57.83	平均	1.36	2.25	1.75	1.33	1.69	1.50	2.00	1.71	2.29	1.65	1.76	1.94	1.71	1.47	1.76	1.59	1.53	1.82	2.06	1.41	1.18	1.47	1.41	1.12	1.06	2.13	2.24	1.65	1.65	1.71	1.06	1.12	1.00	1.24	1.06	1.38	1.47	1.25	1.19	1.18	22.57	41.60
		標準偏差	1.25	標準偏差	0.84	1.13	1.13	0.82	0.60	0.73	0.71	0.77	0.92	0.70	0.56	1.00	0.85	0.72	0.97	0.87	0.62	0.73	0.83	0.71	0.53	0.72	0.62	0.49	0.24	0.81	0.90	0.79	0.86	0.92	0.24	0.33	0.00	0.56	0.24	0.65	0.62	0.45	0.40	0.39	13.21	9.40
介護	あり	人数	20	回答数	17	18	18	17	20	20	20	19	20	19	20	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	20	19	20	18	19	19	20	19	20	18	18	18	16	19	18	18	18	16	16
		平均年齢	49.95	平均	1.35	2.00	1.83	1.41	2.10	1.55	2.40	1.84	2.15	1.53	1.70	1.68	1.47	1.53	1.68	1.42	1.37	1.37	1.42	1.53	1.11	1.21	1.37	1.30	1.11	2.00	1.89	1.42	1.58	1.25	1.00	1.45	1.22	1.06	1.11	1.25	1.26	1.17	1.06	1.33	21.75	40.63
		標準偏差	6.19	標準偏差	0.61	1.03	0.86	0.87	0.79	0.89	0.99	1.07	0.88	0.51	0.66	0.67	0.61	0.77	0.75	0.61	0.50	0.60	0.69	0.77	0.32	0.54	0.60	0.57	0.32	0.65	1.02	0.61	0.90	0.64	0.00	0.69	0.43	0.24	0.32	0.58	0.56	0.38	0.24	0.69	10.51	6.40
	なし	人数	396	回答数	358	370	358	368	381	374	383	377	382	370	379	374	370	378	382	376	371	381	380	381	375	378	379	379	378	381	373	375	373	378	377	377	375	377	377	365	376	375	376	372	332	279
		平均年齢	50.26	平均	1.47	2.08	1.64	1.34	1.94	1.47	2.16	1.61	2.10	1.45	1.63	1.79	1.47	1.61	1.72	1.47	1.51	1.46	1.47	1.40	1.12	1.35	1.36	1.12	1.09	2.02	1.82	1.61	1.57	1.32	1.04	1.15	1.21	1.14	1.20	1.24	1.18	1.36	1.22	1.36	21.49	40.43
		標準偏差	5.90	標準偏差	0.72	1.03	0.87	0.60	0.81	0.68	0.89	0.78	0.88	0.66	0.72	0.92	0.70	0.72	0.82	0.68	0.65	0.63	0.75	0.68	0.41	0.57	0.55	0.37	0.30	0.64	0.79	0.87	0.93	0.62	0.24	0.40	0.45	0.43	0.47	0.75	0.67	0.90	0.50	0.64	15.17	6.83

［参考・引用文献］

1)総務庁統計局：平成５年10月１日現在推計人口,国民衛生の動向,40, 52～62,1993
2)青野敏博編：臨床医のための女性ホルモン補充療法マニュアル,医学書院,7～9, 1994
3)野澤志朗,太田博明：ＱＯＬ向上のための更年期女性のヘルスケア,医薬ジャーナル社,13～14,1994
4)Margaret Lock et al.（上野恭子訳）：更年期症候群の文化的構造：日本の場合,看護研究,23－2,216～227,1990
5)Kupperman,H,S.,et al.: Comparative clinical evaluation of estrogenic preparations by the menopausal and amenorrheal indics,J.Clin.Endocrinol.Metab,13,688～703,1953
6)小山嵩夫：更年期のホルモン療法,地域保健研究,8～41,1992
7)太田博明：外来での更年期患者治療の進め方,JIM,5－2,1995
8)河合隼雄他：シンポジウム中年の発達心理学,教育心理学年報,30,3～5,1990
9)C.G.Jung（秋山、野村編訳）：意識 無意識 個性化,ユング人間論,思索社, 1980
10)E.H.Erikson（仁科弥生訳）：幼児期と社会1.2,みすず書房,1980
11)E.H.Erikson（朝長正徳訳）：老年期,みすず書房,1990
12)B.L.Nugarten:The awareness of middle age and Aging,Univ Chicago Press,1968
13)E.Jaques ：Death and Midlife Crisis, Int J Psychoanal,46,502,1965
14)R.L.Gould：Transformations;Growth and Change in Adult Life,Simon & Schuster,1878
15)D.J.Levinson（南博訳）：人生の四季,講談社,1980
16)河合隼雄：概説,精神の科学６, ライフサイクル, 岩波書店,1983
17)小此木啓吾：中年の危機, 精神の科学６, ライフサイクル,岩波書店,1983
18)岡本祐子,松下美知子編：女性のためのライフサイクル心理学,185,福村出版, 1994
19)H Deutsch：The Climacterium,The Phychology of Women,2,Grune & Stratton,New York,1945
20)B.L.Neugarten,N.Datan：The Middle years,American Handbook of Psychiatry,1,592,Basic Books,New York,1974
21)M.Notman：Midlife concerns of women;Implications of the menopause,Am J Psychiatry,136,1270,1979
22)G.Sheehy（深沢道子訳）：パッセージ,プレジデント社,1978
23)深沢道子：中高年主婦の心理と病理,中高年女性学,垣内出版,1979
24)筒井末春：心身医学的にみた更年期の臨床ー閉経期症候群ー,新興医学出版社,1989
25)高木繁夫,柳澤洋二：更年期障害,医学図書出版,56～57,1980
26)安部徹良：精神心理テスト,臨産婦,45－5,566～569,1991
27)野澤志郎,太田博明：前掲書,77～79,1994
28)朝日新聞社：朝日新聞朝刊平成７年６月27日家庭欄
29)神津弘：外来での更年期患者の診察・診断の進め方,ＪＩＭ,5－2,1995
30)秋山敏夫：更年期指数を考える,日本更年期医学会雑誌,2,104,1994
31)WILLIAM W.K.ZUNG,MD,DURHAM,NC: A Self－Rating Depression Scale,ARCHIVES OF GENERAL PSYCHIATRY,12－1,63～70,1965
32)土肥信之,岩谷力,楊森良二：精神機能評価,医歯薬出版,272～273,1993
33)岡本祐子:中年期の自我同一性に関する研究,教育心理学研究,33,295～306,1985
34)岡本祐子,山本多喜司：定年退職期の自我同一性に関する研究,教育心理学研究,33,185～194,1985
35)大森智美,遠藤俊子,清水嘉子他：中高年女性の発達課題に関する研究,その１発達課題達成状況,日本看護科学学会誌,14－3,286～287,1994
36)遠藤俊子、清水嘉子、大森智美他：中高年女性の発達課題に関する研究, その２子育て・仕事との関連,日本看護科学学会誌,14－3,288～289,1994
37)遠藤俊子：更年期女性の健康問題と看護,日本更年期医学会雑誌,2,44,1994
38)藤村龍子：成人看護の特性と看護婦の役割,看護学大系12成人の看護,日本看護協会出版会,3～21,1994
39)川田智恵子：更年期へのヘルスプロモーションからの接近ー健康教育からー, 日本更年期医学会雑誌,2,58,1994
40)堀内和美：中年期女性が報告する自我同一性の変化,教育心理学研究,41,11～21,1993
41)森一郎：更年期をめぐっての問題点, 産婦人科の世界,39－9,29～36,1987
42)内山源：改訂現代生活と健康,家政教育社,11～37,1989
43)ＷＨＯ（島内憲夫訳）：ヘルスプロモーションーＷＨＯオタワ憲章ー,垣内出版,49～50,1990
44)神田清子他：一般健康者と高血圧患者の抑うつ状態の出現頻度の比較,群大医短紀要,13,17～22,1992
45)福田一彦他：日本語版ＳＤＳ自己評価式抑うつ尺度使用手引き,三京房,1983
46)神田清子他：在宅老人介護者の抑うつ状態に関する研究,群大医短紀要,12,59～65,1991
47)小山嵩夫：日本婦人の更年期指数を考える,日本更年期医学会雑誌,2,43,1994
48)大川章子他：更年期婦人の不定愁訴と閉経の受容に関する調査研究,聖路加看護大学紀要,15,44～55,1989